

学校と地域の

連携・協働推進

ハンドブック



栃木県教育委員会

学校と地域の連携・協働によって期待できる効果

子どもは

- ・「生きる力」が育成されます
- ・社会性が育まれます
- ・地域への愛着が芽生え、地域の担い手としての自覚が高まります
- ・学力向上の基盤をつくります



保護者は

- ・学校や地域への理解が深まります
- ・地域で子どもが育まれ、安心感が生まれます
- ・他の保護者や、地域の人との人間関係を築くことができます



学校は

- ・地域と役割を分担することで学校の課題が解決されます
- ・地域との信頼関係が構築されます
- ・地域住民の専門性や地域の教育資源を生かすことで、授業の内容が充実します



地域は

- ・子どもたちの成長に関わる喜びが得られます
- ・地域住民が互いに知り合う機会となり、地域コミュニティが活性化します
- ・身に付けた様々な知識や技術を生かす機会となり、生涯学習活動が充実します



目次

はじめに

- ・学校と地域の連携・協働の必要 1
- ・学校と地域の連携・協働の推進の流れ 2
- ・栃木県の学校と地域の連携・協働体制の実施・導入状況 4

第1章 基本編

- ・学校と地域の連携・協働に向けたビジョンの共有 6
- ・コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入 7
- ・地域学校協働本部の整備 8
- ・学校と地域の連携・協働の推進のキーパーソン 10
- ・地域連携教員の役割 11
- ・校内体制の整備 12
- ・地域連携教員の年間スケジュール 13
- ・地域コーディネーターの役割 14
- ・活動に応じたボランティアを探す視点 16
- ・地域コーディネーターとして心掛けていること 17
- ・熟議の実施 18
- ・地域住民等の参画の促進 20
- ・情報提供・理解促進 21
- ・PDCAサイクルの構築 22
- ・**コラム** 学校と地域の連携・協働と学校における働き方改革 24

第2章 実践編

- ・事例1 コミュニティ・スクールの導入に向けて 市貝町立市貝中学校 26
- ・事例2 学校地域応援団とコミュニティ・スクールの整備・導入による一体的推進に向けて 佐野市立葛生小学校 27
- ・事例3 地域とのつながりと学校支援ボランティアの導入 栃木県立今市特別支援学校 28
- ・事例4 熟議をとおした既存の活動の充実 さくら市立熟田小学校 29
- ・事例5 「ふなっこチャレンジウォーキング」の誕生 塩谷町立船生小学校 30
- ・事例6 目標の共有による協働の推進 宇都宮市立御幸小学校 31
- ・事例7 大人も子どもも楽しむ地域学校協働活動 日光市立今市小学校 32
- ・事例8 地域の多様な人々との関わりから学ぶ 下野市立国分寺中学校 33
- ・事例9 「ましこ未来大学」などのコース別探究学習 栃木県立益子芳星高等学校 34
- ・事例10 既存の取組を充実させるために 大田原市立湯津上中学校 35
- ・事例11 地域資源の“梅”を使った地域学校協働活動 上三川町立上三川中学校 36
- ・事例12 学校支援ボランティアとの連携・充実 真岡市立真岡東中学校 37
- ・事例13 地元の魅力「稲葉ふるさと学習」を発信しよう 壬生町立稲葉小学校 38
- ・事例14 学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進 那須町立那須中学校 39
- ・**コラム** 悩んだときはこう切り抜けた 40

参 考

- ・地域学校協働活動 42
- ・地域学校協働活動推進員 43
- ・コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度） 44
- ・地域学校協働本部 45
- ・学校と地域の目指すべき連携・協働の姿 46

- 参考文献等 47
- 作成委員・奥付

ハンドブックについて

このハンドブックは、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）や地域学校協働本部をこれから導入・整備する予定の自治体や学校、及び現在展開している活動を振り返り、さらに活性化したいと考えている関係者のガイドとしていただくために作成したものです。

内容は、「基本編」、「実践編」、「参考」の3編で構成しています。

■ 第1章 基本編

- ・基本編は、学校と地域の連携・協働の具体的な取組やポイントを掲載しています。
- ・各ページには、特に読んでいただきたい関係者をアイコンで表示しました。

学校関係者 … **学**

地域住民等 … **地**

行政関係者 … **行**

- ・基本編の各事項には、関連する「実践編」や「参考」の事項を次の図のように掲載しています。

実践編 P. ○

参考 P. ○～○

■ 第2章 実践編

- ・実践編は、栃木県教育委員会が指定した「学校と地域の連携推進モデル事業実践校」の取組を主とした県内の事例を掲載しています。
- ・各事例のポイントは、「#体制整備・導入」のように、#（ハッシュタグ）を付けて記載し、内容の把握がしやすいようにしています。
- ・実践編の各事項には、関連する「基本編」や「参考」の事項を次の図のように掲載しています。

基本編 P. ○

参考 P. ○～○

■ 参 考

- ・参考は、専門的な用語等の説明を掲載しています。

本ハンドブックにおける「地域コーディネーター」の表記について

本ハンドブックでは、地域学校協働活動推進員や各自治体の名称で活動しているコーディネーター（地域教育コーディネーター、地域コンシェルジュ等）の総称として、便宜上「地域コーディネーター」と表記しています。

学校と地域の連携・協働の必要

近年、急激な社会の変化に伴い、学校や地域を取り巻く環境はますます複雑化、多様化しています。学校では、いじめや暴力行為等の問題行動の発生、不登校や特別な配慮を必要とする児童生徒の増加など、児童生徒に関わる課題や多様化する保護者のニーズへの対応を余儀なくされています。

一方、地域においては、家族形態の変化、価値観やライフスタイルの多様化等、地域社会における人のつながりの希薄化などにより、地域社会の停滞や地域の教育力の低下などが危惧されています。

そうした状況の中、学校に関わる大人同士が、「どのような子どもに育てたいか」「何を実現していくか」という目標やビジョンを共有し、

- ・学校と地域がパートナーとして連携・協働しながら学びを展開していく学校づくり
- ・学校を核とした連携・協働を通じて、子どもたちの地域への愛着や誇りを育み、地域の将来を担う人材へと育成するとともに、地域住民同士のつながりを深め、主体的に課題の解決と活性化を目指す地域づくり

を進めることが求められています。

社会の変化に伴う学校と地域の在り方の変化

学校教育を取り巻く環境

児童生徒に関わる課題の複雑化・困難化 等

教育改革の動き

「社会に開かれた教育課程」の実現 等

社会の動向

地域の教育力の低下 等

地方創生の動き

学校を核とした地域の活性化 等

求められるものとは…

- これからの時代を生き抜く力の育成（学校だけでは得られない知識・経験・能力）
- 自ら地域を創っていくという地域住民の「主体的な意識」への転換

学校と地域の連携・協働が必要

具体的な取組

コミュニティ・スクール

×

地域学校協働活動

「ビジョン」や「目標」
の共有

「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現

学校と地域の連携・協働の推進の流れ

本ハンドブックでは、学校と地域の連携・協働の流れを「整備・導入期」から「運営期」の段階へと整理しています。その流れに沿い、「第1章 基本編」と「第2章 実践編」に分けて、具体的な取組やポイント、事例を示しています。

【整備・導入期】

学校と地域の連携・協働の体制の準備や取組の開始段階

- ・コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入や地域学校協働活動の主体となる地域学校協働本部の整備の準備段階
- ・地域コーディネーターやボランティアと連携・協働した取組の充実を図る段階

整備・導入期

第1章 基本編

学校と地域の連携・協働に向けたビジョンの共有	6
コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入	7
地域学校協働本部の整備	8
学校と地域の連携・協働の推進のキーパーソン	10
地域連携教員の役割	11
校内体制の整備	12
地域連携教員の年間スケジュール	13
地域コーディネーターの役割	14
活動に応じたボランティアを探す視点	16
地域コーディネーターとして心掛けていること	17

第2章 実践編

# 体制整備・導入	
# コミュニティ・スクール 市貝町立市貝中学校	26
# 体制整備・導入	
# コミュニティ・スクール 佐野市立葛生小学校	27
# 学校支援ボランティア # 地域コーディネーター 栃木県立今市特別支援学校	28

【運 営 期】

学校と地域の連携・協働の体制を生かした地域学校協働活動の実施段階

・コミュニティ・スクールや地域学校協働本部を運営し、地域学校協働活動を実施している段階

運
営
期

第1章 基本編

熟議の実施 18

地域住民等の参画の促進 20

情報提供・理解促進 21

P D C A サイクルの構築 22

コラム

学校と地域の連携・協働と
学校における働き方改革 24

第2章 実践編

熟議 # 既存の活動の充実
さくら市立熟田小学校 29

熟議 # 新しい関係性の構築
塩谷町立船生小学校 30

学校と地域の役割分担 # 熟議
宇都宮市立御幸小学校 31

地域団体との関わり
日光市立今市小学校 32

小中一貫・小中連携
下野市立国分寺中学校 33

町行政との関わり
栃木県立益子芳星高等学校 34

既存の活動の充実
大田原市立湯津上中学校 35

地域資源を生かした継続的な取組
上三川町立上三川中学校 36

学校支援ボランティアの募集及び連携
真岡市立真岡東中学校 37

情報提供・理解促進
壬生町立稲葉小学校 38

体制を生かした継続的な取組
那須町立那須中学校 39

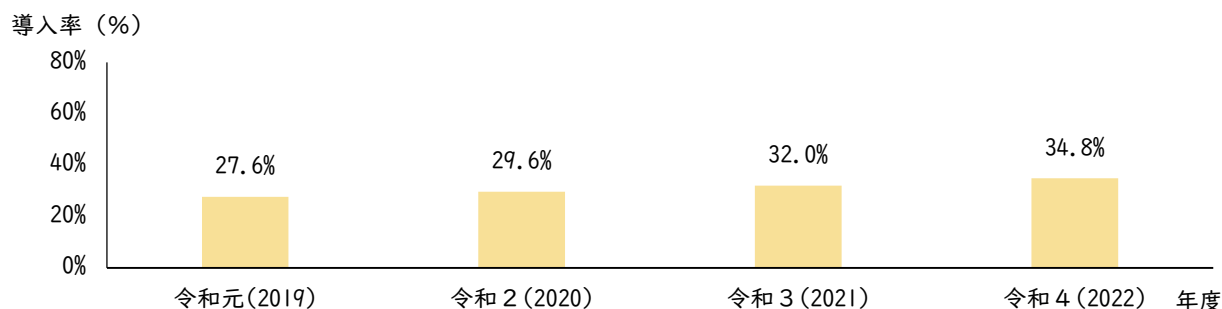
コラム

悩んだときはこう切り抜けた 40

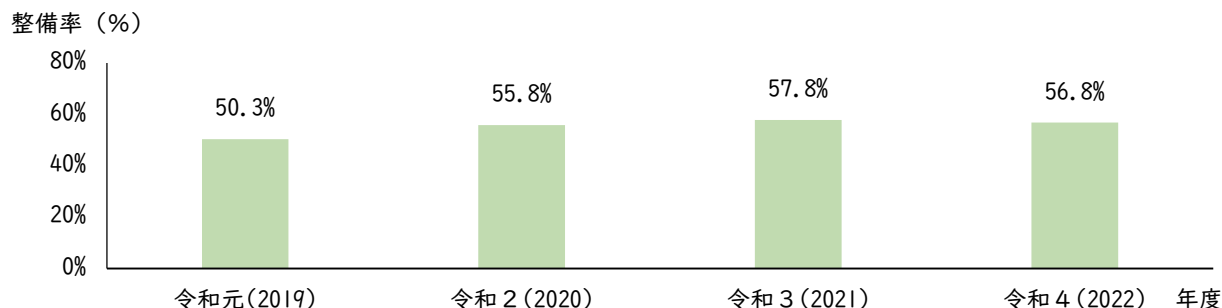
栃木県の学校と地域の連携・協働体制の実施・導入状況

栃木県の公立学校におけるコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入、地域学校協働本部の整備、及び地域コーディネーターの配置の状況は次のとおりです。

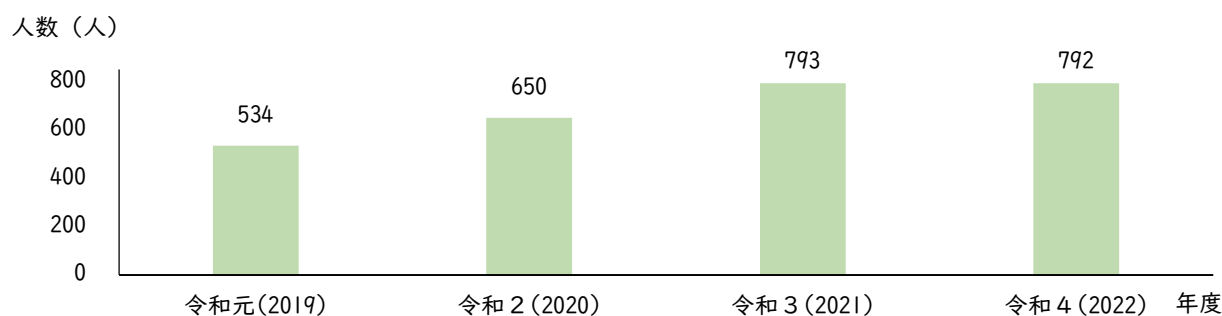
【コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入状況】



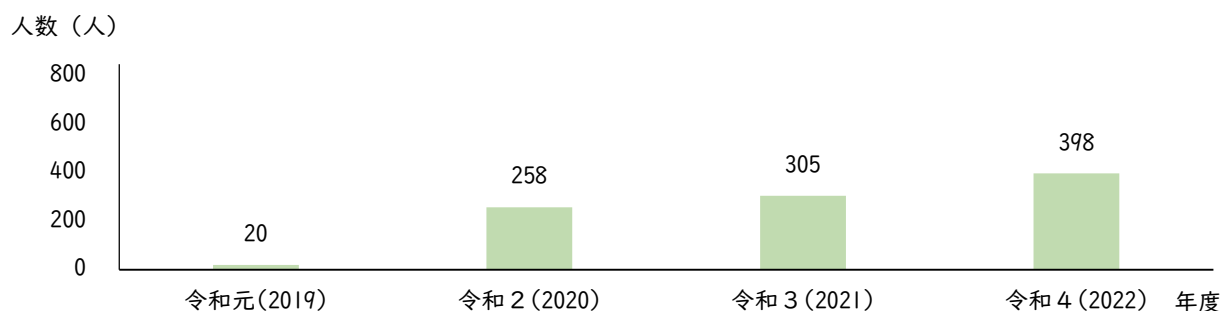
【地域学校協働本部の整備状況】



【地域コーディネーターの配置状況】



【地域学校協働活動推進員の配置状況】



出典：文部科学省「地域と学校の連携・協働体制の実施・導入状況」調査結果（全学校種）

令和元(2019)年度～令和4(2022)年度

第1章 基本編

整備・導入期

学校と地域の連携・協働に向けたビジョンの共有	学 地 行	6
コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入	行	7
地域学校協働本部の整備	行	8
学校と地域の連携・協働の推進のキーパーソン	学 地	10
地域連携教員の役割	学	11
校内体制の整備	学	12
地域連携教員の年間スケジュール	学	13
地域コーディネーターの役割	地	14
活動に応じたボランティアを探す視点	地	16
地域コーディネーターとして心掛けていること	地	17

運営期

熟議の実施	学 地 行	18
地域住民等の参画の促進	学 地	20
情報提供・理解促進	学 地 行	21
P D C Aサイクルの構築	学 地 行	22

コラム	学校と地域の連携・協働と学校における働き方改革	24
-----	-------------------------	----

連携・協働とは、「立場の異なる人たちが、同じ目的のために、対等の立場で協力して共に活動すること」といえます。

学校と地域の連携・協働の推進を図るためには、学校と地域が互いの課題を認識し、目指すべきビジョン（将来構想）や、その実現に向けた目標を共有することが大切です。

■ ビジョンの策定と目標の設定

学校と地域の連携・協働を推進するために、教育委員会において、各自治体の地域づくりや教育政策の方針等^{*}を踏まえ、どのような地域を創っていくのか、そのために地域でどのように子どもを育てていくのかという自治体のビジョンを策定し、明確にします。

さらに、そのビジョンに基づき、目標を設定します。その際、地域の現状の把握とともに、成果の客観的な評価ができるよう、可能な限り数値目標を設定し、根拠（エビデンス）となるデータや情報をあらかじめ収集しておきます。

ビジョンや目標の実現に向けた取組の推進に有効な仕組みが、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）及び地域学校協働活動の主体となる地域学校協働本部であり、その導入や整備を進めていくことが求められています。

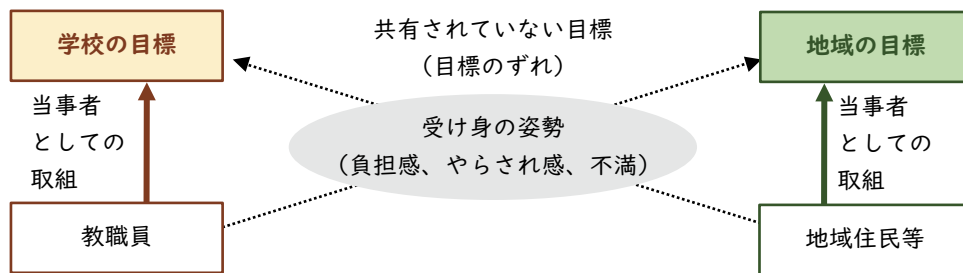
^{*}地域づくりや教育政策の方針等の例

まちづくり条例、市民活動推進条例、青少年育成プラン、生涯学習推進計画、教育振興基本計画 等

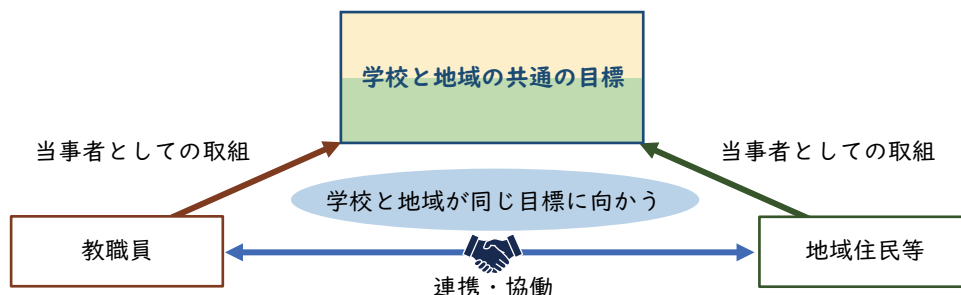
■ 学校と地域のビジョンや目標の共有

学校と地域の連携・協働に向けて、教職員や地域住民等が、学校評価の結果等のデータに基づき、子どもたちの実態、学校、家庭、地域の現状や課題を認識し、どのような子どもを育てるのか、何を実現していくのかといった学校と地域のビジョンや目標を共有することが大切です。その上で、自分たちができることは何かを考え、地域学校協働活動を推進していきます。

【目標が共有されていない場合】



【目標が共有された場合】



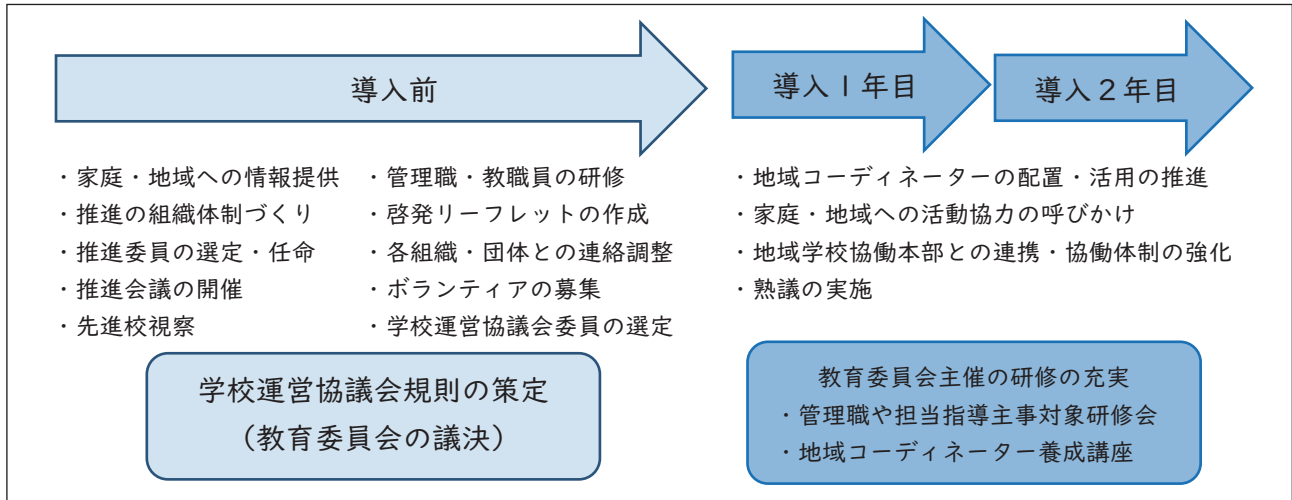
コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)の導入

行

コミュニティ・スクールは、学校運営に地域住民や保護者等が参画することを通じて、学校・家庭・地域の関係者がビジョンや目標を共有し、学校の教育方針の決定や教育活動の実践に地域のニーズを反映させるとともに、地域ならではの特色ある学校づくりを進めるための仕組みです。

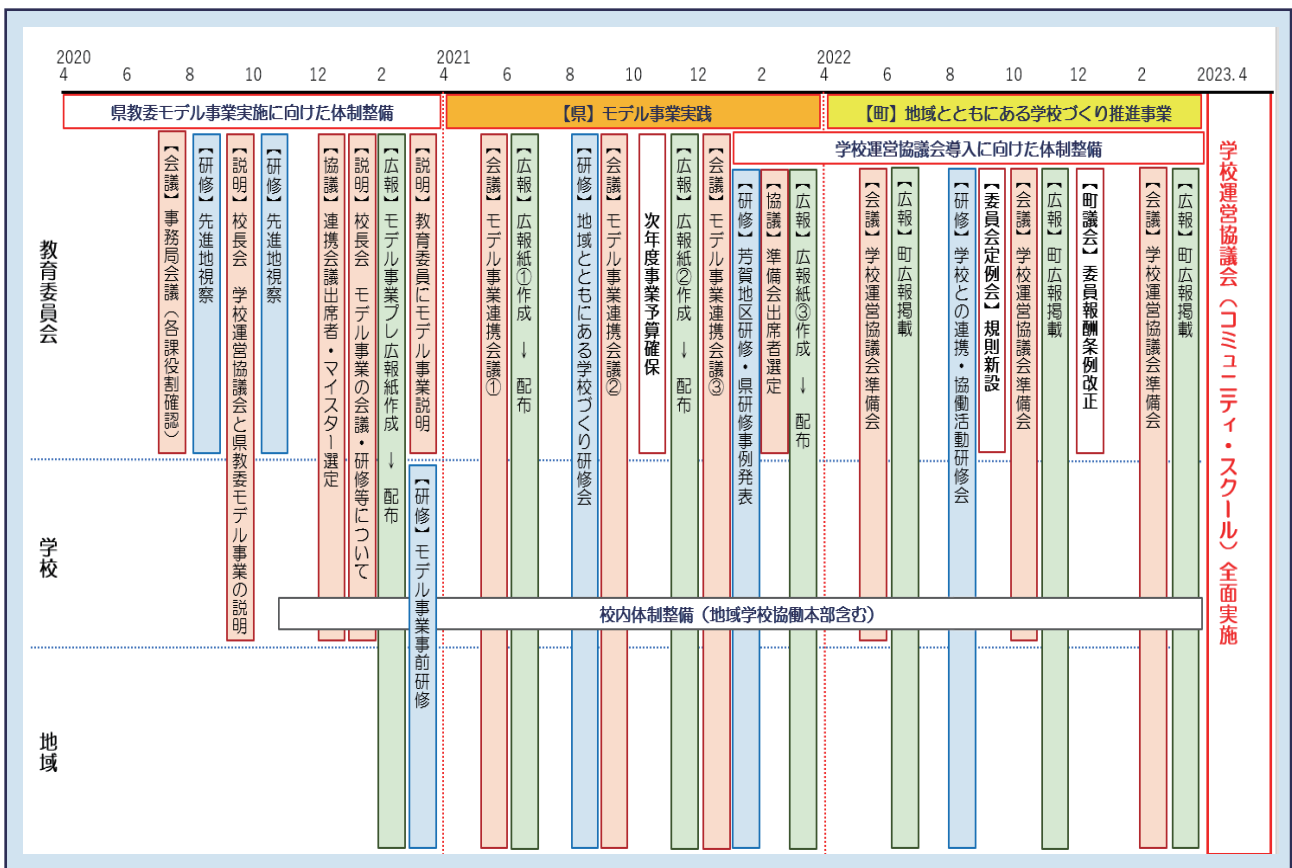
コミュニティ・スクールの導入に当たり、教育委員会は次のような準備を行います。

【コミュニティ・スクールの導入・推進のスケジュール例】



出典：文部科学省「コミュニティ・スクールのつくり方」令和2(2020)年

【コミュニティ・スクールの導入のスケジュール例】

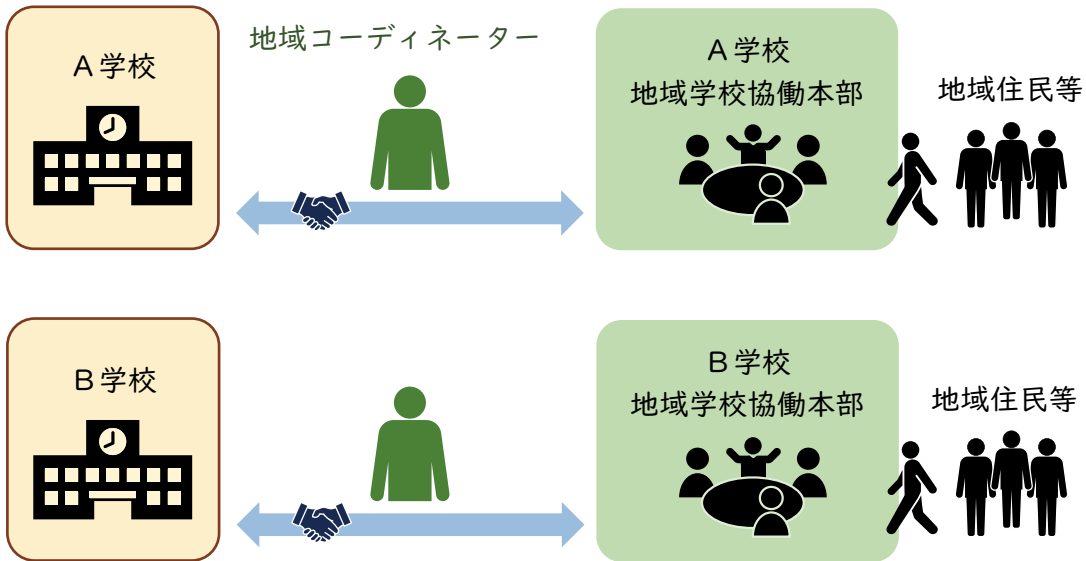


提供：市貝町教育委員会

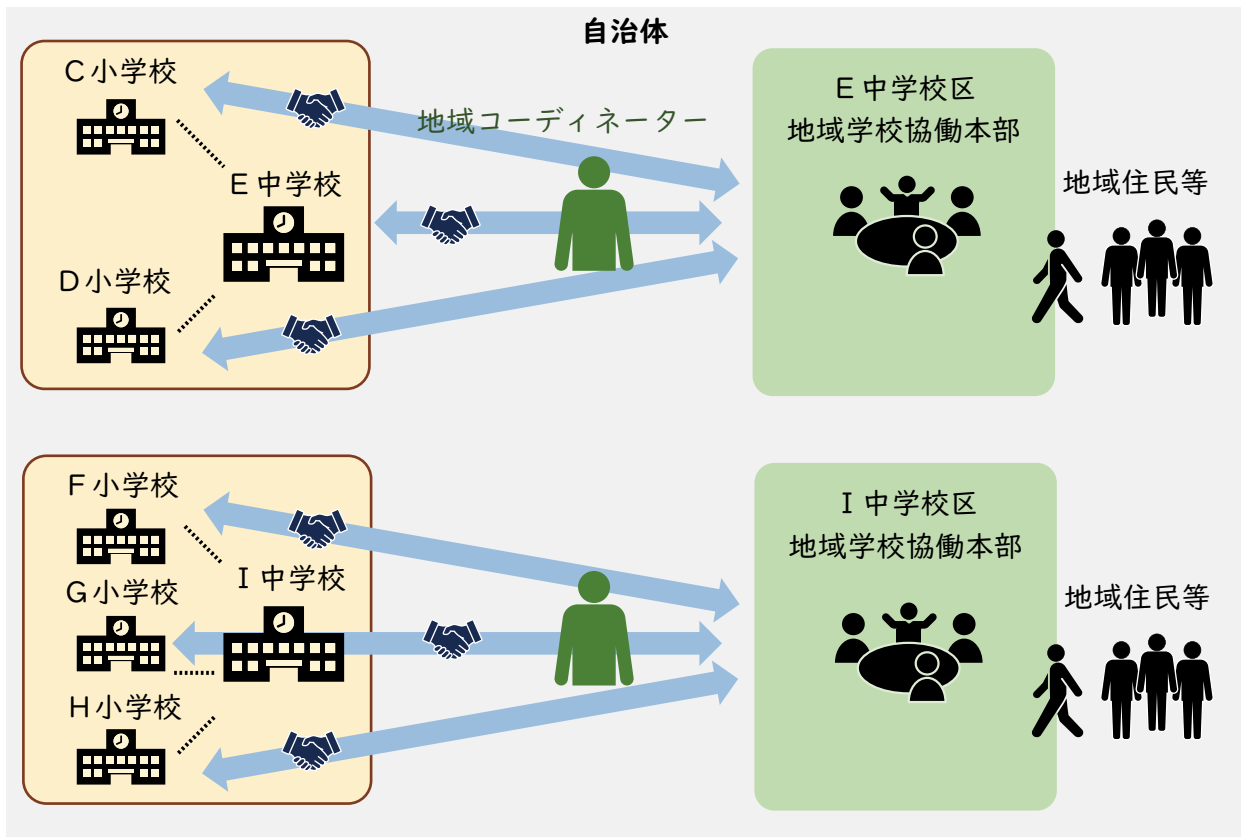
地域学校協働活動を推進するためには、活動の主体となる地域学校協働本部の整備が有効です。既存の組織を母体とするなど、教育委員会が学校や地域住民等と協議しながら、自治体の実情に応じて整備を進めていきます。

県内の地域学校協働本部の整備状況としては、次のような例があります。

【例1 学校ごとに地域学校協働本部を整備】

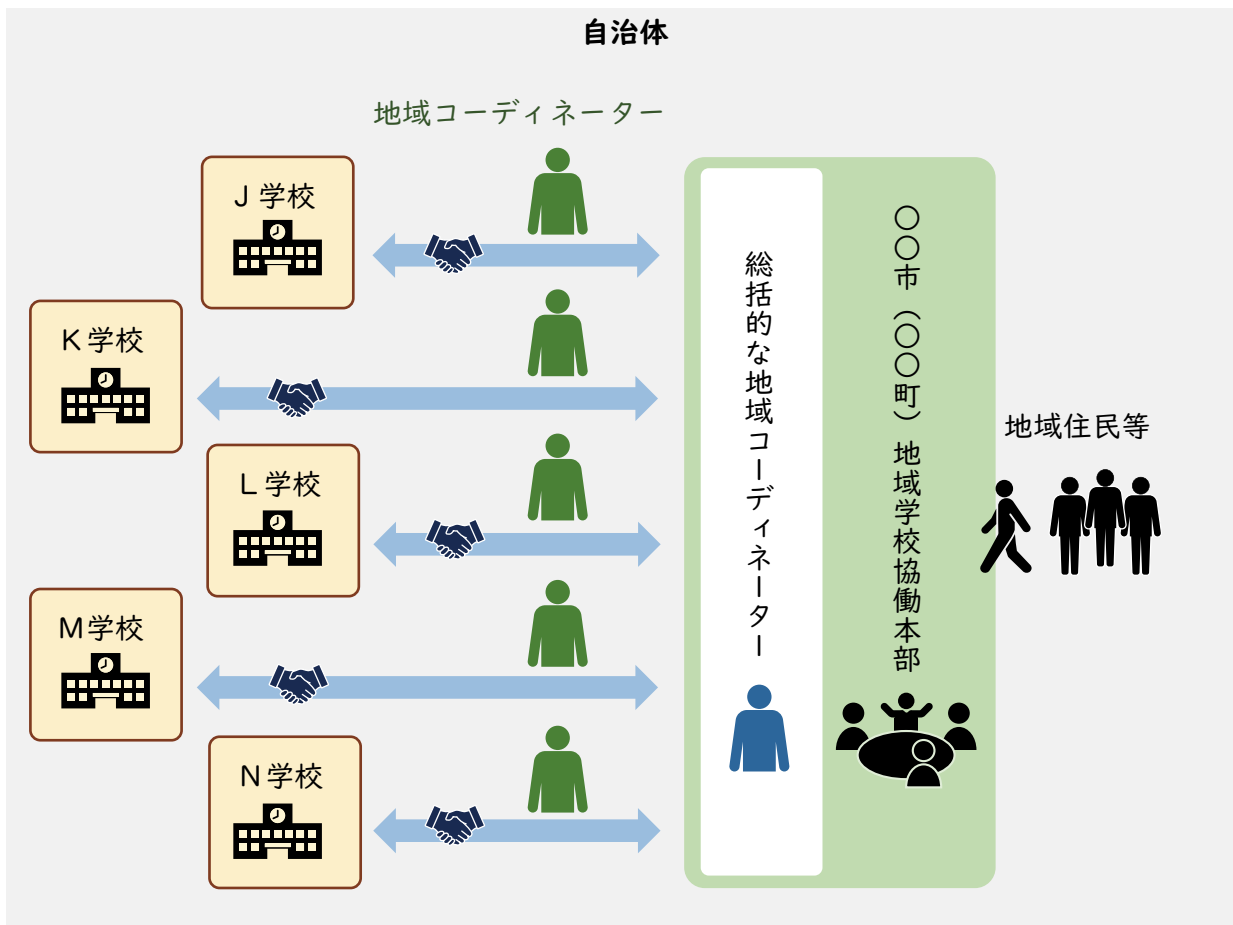


【例2 中学校区ごとに地域学校協働本部を整備】

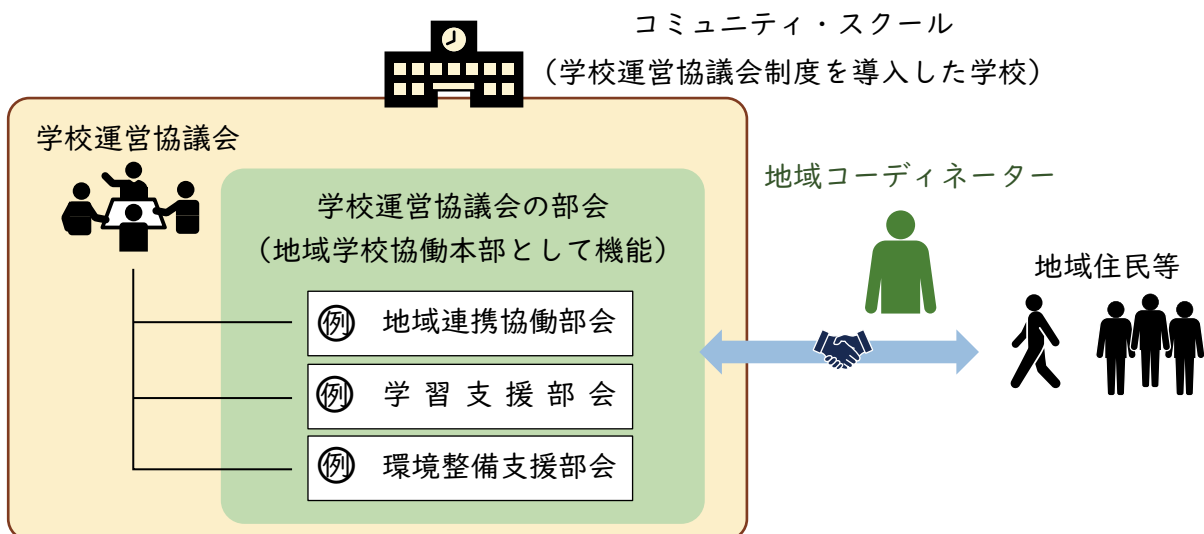


第一章基本編
整備・導入期
ビジョンの共有
コミュニティ・スクールの導入
地域学校協働本部の整備
地域連携教員
地域コーディネーター
運営期
熟議の実施
地域住民の参画
情報提供促進
P D C A

【例3 自治体で1つの地域学校協働本部を整備】



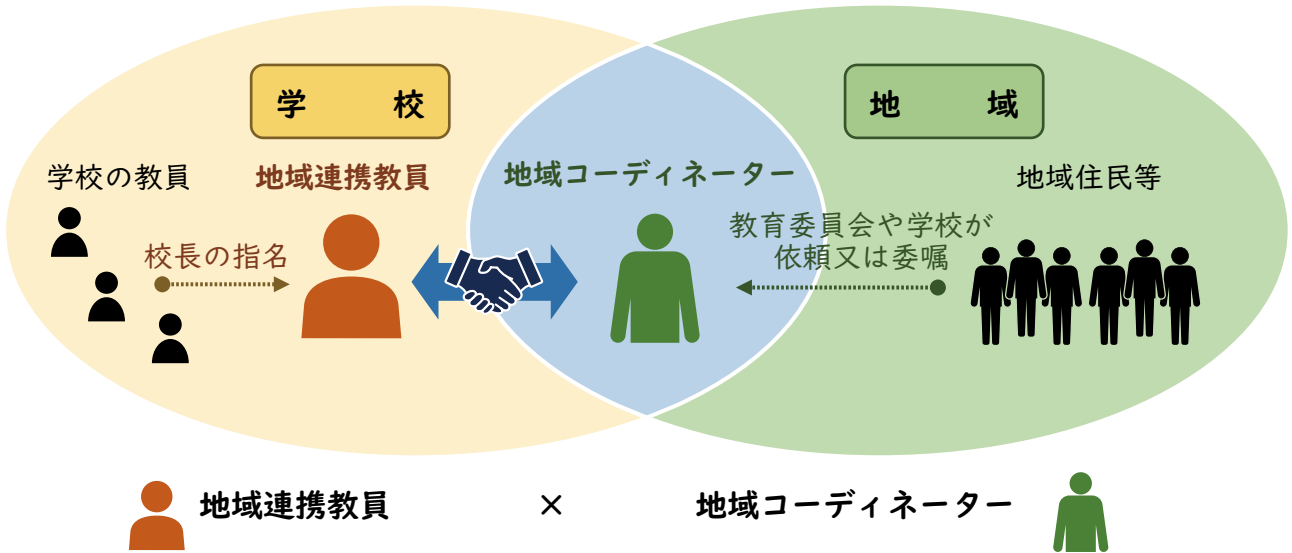
【例4 学校運営協議会の部会を地域学校協働本部として整備】



学校と地域の連携・協働の推進のキーパーソン

学 地

学校と地域の連携・協働のキーパーソンは、学校側の窓口となる地域連携教員と地域側の窓口となる地域コーディネーターといえます。お互いが連携することで、「地域とともにある学校」づくりや地域学校協働活動を効果的・効率的に推進することができます。



栃木県教育委員会は、県内の公立学校において、地域連携に携わる教員を地域連携教員として校務分掌に位置付けています。

※栃木県内の公立学校（小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校）

地域の様々な立場の方が地域コーディネーターの役割を担っています。

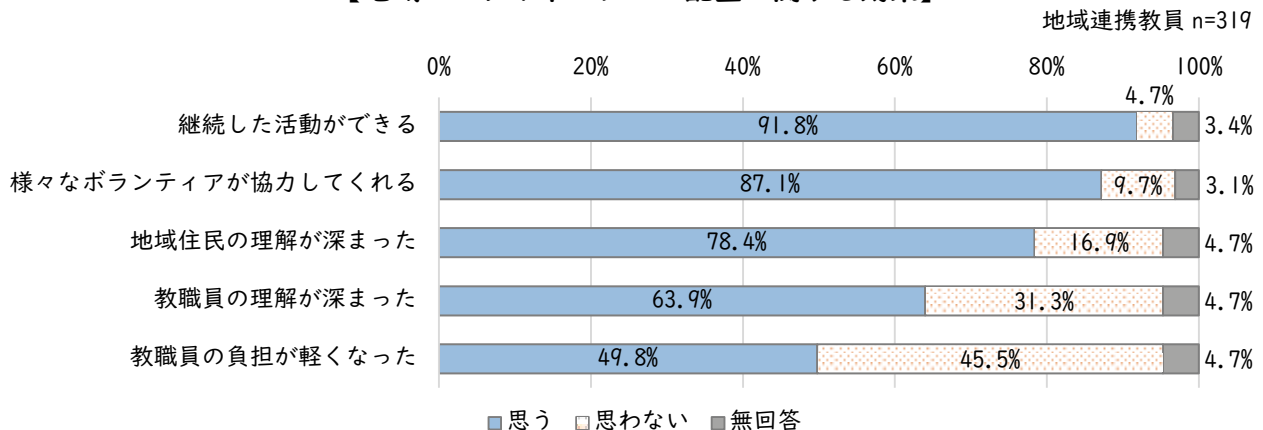
(例)・学校支援ボランティア

- ・PTA 関係者、PTA 活動の経験者
- ・自治会等の地域団体の関係者
- ・NPO 等

また、市町職員が地域コーディネーターの役割を担う場合があります。

地域連携教員を対象とした調査結果では、地域コーディネーターの配置の効果として、学校と地域が連携した取組の充実及び教職員や地域住民の理解の促進が挙げられています。

【地域コーディネーターの配置に関する効果】



出典：栃木県総合教育センター「学校支援のためのコーディネーターに関する調査研究」報告書 平成29(2017)年

第一章基本編
整備・導入期
ビジョンの共有
コミュニケーションの導入
地域学校協働の整備
地域連携教員
地域コーディネーター
運営期
熟議の実施
地域住民の参画
情報提供促進
PICKUP

地域連携教員は、学校と地域の連携・協働に関する学校側の窓口となり、学校と地域の連携・協働に関する校内の体制整備や校内又は学校間での教育活動の充実などの取組を推進します。

■ 地域連携教員の職務

1 総合調整

- ・ 地域連携に関する計画の作成及び見直し
- ・ 地域連携に関する校内研修の企画・運営 等

「プランナー（企画者）」として、学校全体の連携活動のマネジメントや体制づくりを行う

2 連絡調整や情報収集・発信

- ・ 地域連携に関する活動の連絡調整
- ・ 地域連携に関する情報収集・発信 等

「コーディネーター（調整者）」として、地域コーディネーター等の地域人材と連携しながら、連携活動を進める

3 取組の充実

- ・ 地域連携に関する活動の実践
- ・ 地域連携に関する活動への支援
- ・ 計画や活動についての評価 等

「アドバイザー（助言者）」として、研修で学んだ知識・情報等を生かし、他の教員の活動を支援する

■ 先輩地域連携教員へのインタビュー

地域連携教員に、活動で大切にしていることや活動のポイント等についてインタビューしました。

小学校の地域連携教員



小学校は、学区である地域の詳細が把握しやすく、地域の皆様との交流や御支援を深めやすい、という特徴があります。

これからも、そうした特徴を生かし、教職員や児童の願いと、地域の思いをつなぐ総合調整役として、地域とともにある学校づくりを推進していきます。

特別支援学校の地域連携教員



「地域の方々に本校について知ってもらう」ための活動（学校開放講座、地域での作品展、回覧板の配付など）を中心に行い、そこで知り合った地域の方々とのつながりを大切にしています。

また、学校と地域が無理なく、長く続けられる活動を実施することで、地域に根ざした共に歩む学校を目指しています。

中学校の地域連携教員



中学校は、小学校ほど授業支援のボランティアがなく、教職員と地域コーディネーターとの接点が多くありません。そのため、地域コーディネーターの活動を理解していない教職員もいました。そこで年度当初に全職員にコーディネーターを紹介する機会を設定しました。また、本校には地域コーディネーターが常時活動できる教室があるので、訪問日には極力顔を出して話をすることで関係を深めています。

高等学校の地域連携教員



心掛けていることは、教員への情報共有を積極的に行うことです。元々地域との結びつきが強く、各部活動それぞれが地域で活動を行っているため、全体像が把握しにくい現状があります。そこで、本校で行っている活動を年度末に集約し、一覧表にして年度当初に配布しています。また、地域の方と会うときは複数人で会うようにすることで、多くの教員が地域の方とつながりを持てるように配慮しています。

学校では、地域との連携・協働において次のような取組が行われています。

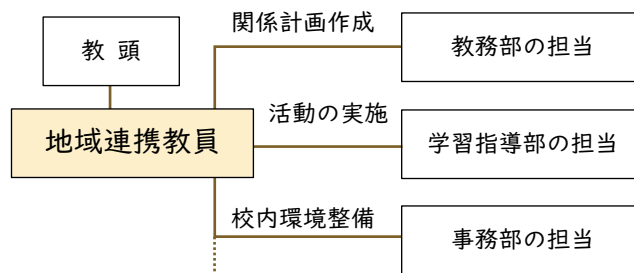
■ 教職員の活動の例

地域住民等による学校支援活動を実施する際、教職員は次のような活動を行っています。

事前	当日	事後
<ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーター又は地域住民等との日程調整、打合せ ・活動の目標、活動当日の日程及び場所の設定 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の打合せ ・授業や活動の記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の評価 ・活動の評価のフィードバック ・ホームページや広報紙等を活用した情報発信

■ 校内のチーム体制の整備の例

地域連携教員がその職務の全てを一人で担うことは適切ではありません。校務分掌を基に、関係する教職員とチームとして対応する体制を整備します。



■ 校内の環境整備の例

【ボランティア室の整備】

校内の空き教室等を活用してボランティア室を整備することで、地域コーディネーターや地域住民等との打合せや情報交換、活動のための準備等を円滑に行うことができます。

ボランティア室を「ふれあいルーム」として整備し、児童生徒と地域住民等との交流の場に行っている学校もあります。



ボランティア室の様子
宇都宮市立陽東小学校

【掲示物の整備】

校内の掲示板を活用して、地域コーディネーターやボランティア、学校内外の地域学校協働活動の様子を紹介します。

児童生徒や教職員、学校を訪れる保護者や地域住民等の学校と地域の連携・協働の取組に対する理解を促進するとともに、地域住民等の参画意欲を高めることにつながります。



掲示物の整備の様子
足利市立毛野南小学校



ボランティアの紹介コーナー
高根沢町立東小学校

各学校の推進計画や年間活動計画とあわせて、地域連携教員の年間スケジュールを検討することで、効果的・効率的な取組につながります。

【年間スケジュールの例】

月	取組の内容
4	①環境の整備 ・推進計画や年間活動計画の点検・見直し ②チーム体制の整備 ③打合せ
5	④情報発信
6	(地域学校協働活動の実施)
7	・情報発信 ⑤情報の蓄積
8	⑥校内研修の実施 ・打合せ ⑦地域の情報収集
9	⑧情報交換の機会の設定
10	(地域学校協働活動の実施)
11	(地域学校協働活動の実施) ・情報発信
12	・情報の蓄積
1	⑨ニーズの把握・共有 ・打合せ (地域学校協働活動の実施)
2	⑩推進計画や年間活動計画の点検・見直し ・情報発信 ・情報交換の機会 ・情報の蓄積
3	・地域の情報収集

①環境の整備

- ・地域コーディネーターやボランティアが相談や活動の準備に使用できる部屋を整備する。
- ・地域コーディネーターやボランティアの名前や活動の紹介、来校情報の共有を行う。



②チーム体制の整備

- 計画作成、連絡調整、記録等の役割を教職員で分担する。



③打合せ

- 学校全体で共通した様式の打合せ用紙やデータを作成・活用し、必要な打合せを行う。



④情報発信

- ホームページ、各種たより等で学校の取組を保護者や地域住民に定期的に発信する。



⑤情報の蓄積

- 活動内容や評価等の必要な情報の記録を取りまとめ、蓄積する。



⑥校内研修の実施

- 研修計画に位置付け、自校の取組状況や課題等について全教職員の理解を深める。



⑦地域の情報収集

- 地域の情報（行事、自治会・ボランティア団体の取組等）を収集する。



⑧情報交換の機会の設定

- 地域コーディネーターやボランティアとの情報交換の機会を設定する。



⑨ニーズの把握・共有

- 教職員のニーズを一覧表にまとめ、地域コーディネーターと情報を共有する。



⑩推進計画や年間活動計画の点検・見直し

- ・活動の効果や課題等について、児童生徒、教員、保護者、地域住民等の様々な視点で評価し、次年度に生かす。
- ・PDCAサイクルに基づき計画を改善し、真に必要な活動を実施する。



地域コーディネーターは地域側の窓口として学校と地域をつなぎ、学校と地域住民等との連絡調整、地域学校協働活動の企画等の役割を担います。

■ 地域コーディネーターの主な役割

地域コーディネーターの主な役割は次のようなものです。学校や地域の要請を踏まえて優先度の高い内容や実施可能な内容から取り組むとよいでしょう。

また、ほかの地域コーディネーターや社会教育行政職員等と役割を分担し、それぞれが得意なことを生かしながら、チームとして取り組むことで大きな成果が期待できます。

役 割	内 容
連絡調整	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の地域連携活動に関する計画の確認 ・ 学校からの要請に基づくボランティアの募集や確保 ・ ボランティアの活動状況の把握・改善のための助言
情報収集・発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人材、関係機関、施設等の情報収集 ・ 地域連携教員の協力による学校のニーズの収集 ・ ホームページや情報紙等を活用した活動の情報発信
取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアと教員、ボランティア同士の打合せや情報交換の機会の設定 ・ 学校や地域の実情に応じた地域学校協働活動の企画・立案

■ 地域コーディネーターの活動例

市町職員の立場で地域コーディネーターを務めている方は、次のような活動を行っています。



事 前	当 日	事 後
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日程調整 ・ 打合せ ・ 学校の要請にマッチしたボランティアの選定 ・ 必要な書類等の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアの対応 出迎え、関係する教職員の紹介 ・ 当日の打合せ 活動の目標、留意事項等の確認 ・ 授業や活動の記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の評価 ・ ボランティアへの活動の評価のフィードバック ・ 活動報告書の作成

地域学校協働活動の実施につながった地域コーディネーターの関わりに次のような例があります。

県内のある高校では、生徒が地域住民と共に体操を行う交流事業を新たに発案した。これを受け、事業の企画は高校と地域住民による推進委員会が行い、実施に向けた連絡調整は地域コーディネーターが担当した。

事業当日は、地域住民や高校の近くの小学校の児童など約90人が集まり、ラジオ体操や高校の体育の授業で行う体操などを行い、交流を深めることができた。



■ 学校のニーズの把握

学校が、「いつ」、「どのような」、「ヒト・モノ・コト」を必要としているのかを把握し、地域住民等との連絡調整を行います。

学校が教職員のニーズ調査を実施している場合は、調査結果を活用するとよいでしょう。

【年間活動計画の例】

学年	教科	月	単元名(教材名)	活動内容(地域人材)
1年	生活	4月	ぐんぐんのびろ	あさがおの種まきの学習支援
		6月	さあ、みんなででかけよう	あかつき公園探検の引率補助(保護者)
		11月	むかしからのあそびをしよう	伝承遊びの学習支援(シニアアクティブクラブ、オビニオンリーダー、児童の祖父母)
		10月	ぐんぐんのびろ	サツマイモの収穫支援(保護者)
2年	生活	11月	むかしばなしがいっぱい	日本の昔話の読み聞かせ
		5月	レッツゴー町たんけん	町の施設見学引率補助(保護者)
		9月	ぐんぐんのびろ	大根など野菜栽培の学習支援
		11月	昔の遊びを楽しもう	伝承遊びの学習支援(シニアアクティブクラブ、オビニオンリーダー、児童の祖父母)
3年	社会	1月	郷土の料理を作ってみよう	しもつかれの意味や作り方についての学習支援(児童の祖父母等)
		5月	学校のまわり	学校のまわり探検引率補助(保護者)
		11月	古い道具と昔の暮らし	古い道具と昔使われていたものについての説明
		4月~12月	作ろう、手作り野菜	野菜作りの学習支援

■ 教員との打合せ

教員との打合せでは、活動のねらいを確認したり、準備物や時間配分などの詳細を決定したりします。

打合せは、学校全体で共通した様式の打合せ用紙を用いて行うことが大切です。確認不足や思い違いによるトラブルを避けるとともに、情報を蓄積し、次年度に向けた活動の評価改善のための資料とすることができます。

【打合せ用紙の例】

事前打合せ用紙(例)			
活動名(学年・教科・領域等) (姓 名 姓 名 姓 名)			
活動日時	年 月 日 ()	場 所	時 分 ~ 時 分
活動場所			
活動のねらい			
主な活動 (ボランティアの具体的な活動内容等)	1 あいさつ	準備物等	
	2 学習活動①		
	3 学習活動②		
	4 まとめ		
連絡事項	<input type="checkbox"/> 集合時間 <input type="checkbox"/> 集合場所 <input type="checkbox"/> 交通手段 <input type="checkbox"/> 資料印刷 <input type="checkbox"/> 経費 <input type="checkbox"/> ボランティア保険 <input type="checkbox"/> 学校からのお願い(別紙参照) <input type="checkbox"/> その他		
ボランティアの名前	名 前	連絡先(Tel等)	連絡時間
	①		
	②		
	姓 名		
活動状況 成果と課題等 (事後)			
担当者 ◎主催者 ○副担	◎	連絡先 Tel Fax e-mail	

■ 教員との連絡調整

学校には日課があり、地域コーディネーターにも都合がありますから、お互いにいつでも打合せや相談ができるわけではありません。学校の年間行事予定表や日課表を踏まえて、事前に連絡調整に適した方法や時間を確認しておきます。

また、教職員と地域コーディネーターが対面や電話で直接話す機会を大切にしつつも、電子メール、SNS、Web会議システム等のICTの活用について検討するとよいでしょう。

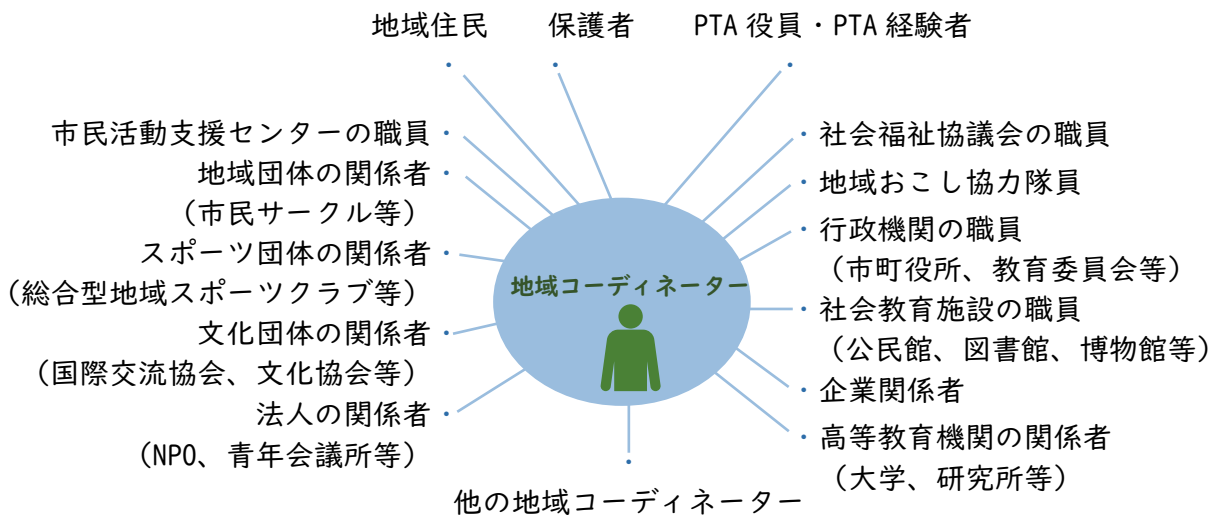
【学校の日課の例】

時間	~8:00	8:00~ 12:20	12:20~ 13:10	13:10~ 13:40	13:40~ 14:00	14:00~ 16:00	16:00~
日課	始業前	授業等	給食	昼休み	清掃	授業等	放課後
教員の勤務例	登校指導 予定の確認 諸連絡対応 授業準備	授業	配膳 食事指導	提出物確認 授業準備 児童生徒 指導	清掃指導	授業	会議・研修 部活動 諸連絡 事務処理 授業準備

地域学校協働活動の内容に合ったボランティアを確保するために、子どもに「関わりたい人」はもちろん、「関わってくれそうな人」や「関わったほうがよい人」に声を掛けるとよいでしょう。地域に次の例のような思いをお持ちの方はいませんか。

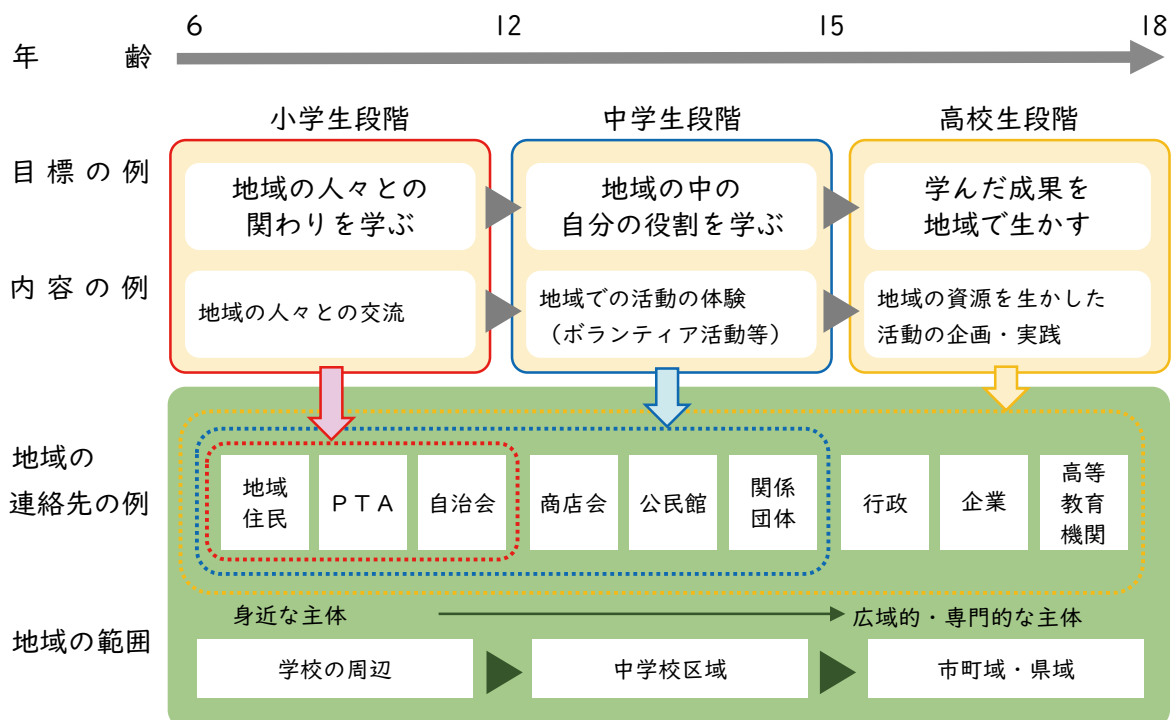
- ・子どものために何かしたい
- ・自分の得意なことや知識や技能を生かしたい
- ・いろいろな人とつながりを築きたい
- ・次の時代に受け継いでもらいたいことがある

また、必要な情報を収集することができる場所を探しておくともよいでしょう。



■ 活動の目標に応じた地域の連絡先や地域の範囲の目安

地域学校協働活動は、学校と地域の連携・協働の目標を踏まえて企画・実施することが大切です。また、子どもの発達の段階によって、目標及び活動の内容は異なり、それに伴い地域の連絡先や地域の範囲が変わることに留意する必要があります。



第一章基本編
整備・導入期
ビジョンの共有
コミュニケーションの導入
地域の学校協働
地域の連携
地域コーディネーター
運営期
熟議の実施
地域住民の参画
情報提供促進
P D C R A

地域コーディネーターを務めている方に、活動で大切にしていることや活動のポイント等についてインタビューしました。



ボランティアの立場で地域コーディネーターを務める方

「コーディネート」と言われると何かハードルが高く、何とかしなければ…と思ってしまいかもかもしれません。でも、決して一人で抱え込まずに「友だちの友だちは皆友だち」感覚で地域のいろいろな人とつながり、知恵や力をお借りすることが大切だと思います。そうすることで自分にとって視野が広がり、いろいろなことを教わる良い機会にもなります。もちろん無理せず断る勇気も必要です。

私が大切にしていることは、できるだけ早く対応して信頼関係を保つことと内心少し大変かなと思っても笑顔で活動の内容を聞くこと、そして楽しみながら取り組むことです。子どもたちの活動のパワーが私のエネルギーと喜びです。



市町職員の立場で地域コーディネーターを務める方

学校から依頼を受けたとき、どのようにしたら上手く活動できるかを考えます。できるだけ要望に応えられるようボランティアを探しますが、無理はしません！

活動を進めていく上で大切なことは、関わる全ての人とコミュニケーションをとることです。会話を重ねることで、学校・地域両者の思いを知ることができます。そして、その思いがどちらかに偏ることのないよう、うまくつなげることがポイントになります。もう一つ大切なことは、アンテナを高く広く張って、より多くの情報をキャッチすることです。人と人とのつながりから生まれるものは、“無限”にありますよ。

全ての思いは“子どもたちのため”につながります。子どもたちにとってよい経験や学びとなれば何より嬉しいです！

■ 地域コーディネーターに求められる資質・能力の例

地域住民等をよく知り、学校の教職員とも円滑にコミュニケーションがとれる地域コーディネーターが学校と地域をつなぐことで、学校と地域の連携・協働の推進が期待できます。

- ・ 地域学校協働活動の推進に関する熱意と識見がある
- ・ 地域学校協働活動への深い関心と理解がある
- ・ 地域の住民、団体、機関等の関係者をよく理解している
- ・ 学校の実情や教育方針への理解がある
- ・ 地域住民や学校、行政関係者等と協力して、活動を円滑に進めることができるコミュニケーション能力や、関係者を説得し、人を動かす力がある
- ・ 地域の問題提起、整理、問題の解決に向けた連携・協働の関係構築等を仲間とともに進めることができるファシリテーション能力にたけている 等



熟議とは、「熟慮」と「議論」によって問題の解決を目指す話合いのことです。

熟議の実施により、学校と地域の関係者が顔を合わせ、子どもに関わる多くの意見を取り上げることができるとともに、ビジョンや目標、情報、活動のアイデアなどを共有することで互いを理解し合い、具体的な取組につながることを期待できます。

■ 「熟議」の場とテーマの設定

熟議は、学校運営協議会、地域学校協働活動の計画や評価を行う会議、学校と地域の連携・協働を内容とした研修会等で実施することが考えられます。

特に、学校運営協議会では、法律や規則で定められた機能に加え、熟議の場を設定することが求められています。

【熟議のテーマの例】

地域の子もたちに
どのように育てほしいか

地域の力を子どもたちの
教育にどのように生かすか

子どもたちの放課後の
安全をどう確保するか

学校・家庭・地域における
ICTの活用について

子どもの問題行動の対応

災害時に避難所となる
学校との連携体制について

■ 「熟議」のポイント

熟議では、次のポイントを押さえながら、学校と地域のビジョンや目標の実現、課題の解決を目指した話合いを進めます。

- 1 保護者、教員、地域住民等の多くの関係者が集まる。
- 2 テーマについての学習、熟慮、議論をする。
(議論の留意点)
 - ・〇年後に、学校や地域できていると望ましいことは何か
 - ・既存の活動の見直しや充実を図ることで課題に対応できないか
 - ・やることばかりを増やさずにやめることができないか
- 3 参加者それぞれの立場や果たすべき役割への理解を深める。
- 4 参加者それぞれの役割に応じた解決策を見出す。
- 5 個々人が納得して自分の役割を果たす。

参加者それぞれの立場を理解し、信頼関係を築くことができました。

ほかの人の意見を聞くことで、新たな気づきや学びがありました。

学校と地域が連携・協働した取組に、主体的に関わろうという意欲を持つことができました。



自分で語ることで、自分が何を考えているかが整理できるし、自分を知ることにつながりました。

■ 熟議の展開

熟議の実施時間や展開は、熟議のねらいやテーマ、参加者の属性や参加人数等に応じて計画します。実施時間を60分とした場合の熟議の展開例を次に示します。

【熟議の展開例】

展開	時間	参加者の活動
1 オリエンテーション	5分	熟議のねらいや留意点を確認する。
2 テーマの確認	10分	説明や資料配布により、テーマに関する背景や現状、課題等を確認する。
3 熟議（前半）	15分	グループごとに、テーマに対する意見を伝え合う。
4 熟議（後半）	15分	グループごとに、熟議の前半で出た意見について、方向性をもって話し合う。
5 全体発表	5分	グループで話し合いの内容をまとめ、全体で発表する。
6 熟議の成果の確認	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・熟議で学んだことや今後に生かしたいこと等について、書いたり発表したりする。 ・今後の取組を確認する。 例：テーマについて熟議を継続する。 例：具体的な取組として実施する。

【付箋を用いたラベルワークの例】

テーマに対する個人の意見を付箋に書き出した後、グループの全ての意見を一枚の台紙の上で整理しながら議論を進行します。参加者の意見を多く取り上げ、可視化しながらまとめる手法として、熟議で活用されています。



地域連携研修会におけるラベルワークの様子

・使用する物品 付箋、マジック、台紙（付箋を貼る大きめの紙）

・手順

- 1 付箋の記入 個人で、テーマに対する意見を付箋に書く。
- 2 意見等紹介 付箋に書いた内容を発表し、付箋を台紙に貼る。
- 3 仲間分け 類似の内容ごとに付箋を仲間分けし、台紙上に貼り直す。
- 4 見出し記入 仲間分けした内容ごとに見出しを考え、台紙に書く。この見出しが、取組の方向性となる。
- 5 評価 見出しごとに整理した内容を基に話し合い、結果をまとめる



地域学校協働活動の実施に当たっては、これまでの活動を支えてきた地域住民等と新たに参画する地域住民等が協力し、それぞれの経験や知見を尊重し合いながら活動に取り組むことが大切です。

■ 地域学校協働活動の4つの視点

次の4つの視点は、地域学校協働活動の実践を整理したものです。学校と地域で共有したビジョンや目標を踏まえ、「何をどこまで実施するのか」を検討し適切な活動を取り入れます。

【地域の人材を生かす視点】

- ・学校支援ボランティアによる活動
- ・企業や高等教育機関等との連携



ボランティアによる
本の読み聞かせ
那珂川町立馬頭東小学校



地域住民との環境整備
那須烏山市立烏山中学校

【地域の資源を生かす視点】

- ・地域資源を活用した校外学習
- ・社会教育施設の活用



郷土の伝統芸能学習
益子町立田野小学校



ふるさと学習
壬生町立稲葉小学校

【学校の力を生かす視点】

- ・学校の教育力を生かした活動
- ・学校施設を生かした活動と交流



PTA 役員とのアルミ缶回収
芳賀町立芳賀中学校



学校での防災訓練キャンプ
日光市立今市小学校

【地域へ参画する視点】

- ・地域でのボランティア活動
- ・近隣や異校種の学校、地域の団体との連携



学区内にある寺院の清掃
上三川町立本郷中学校



3小合同おはぎ作り体験
那須塩原市立大貫小学校

■ 地域住民等の参画を促進するための方法の例

地域学校協働活動を継続的に実施していくために、地域住民等が活動の担い手として参画するよう、次のような働きかけが考えられます。

保護者や PTA 関係者	←	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 関係者と地域学校協働活動の関係者が意見交換を行う場の設定 ・子どもが卒業する保護者へのボランティアのリーフレットや登録書の配布による協力依頼
卒業生や学生	←	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりに関心を持つ大学生等を対象とした、学校や地域の行事等におけるボランティアの機会の提供
地域の団体や 企業等	←	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、青年会議所、商工会議所、子ども会、婦人会等の地域に根差した団体が主催する行事やイベント等への参画 ・地域の企業やNPO、経済・労働関係、社会福祉関係団体等が実施する放課後や土曜等における教育支援活動の活用

また、子どもたちの感謝の気持ちや活動の成果を伝え、地域住民等にやりがいを感じてもらうことが、活動の継続につながります。

地域学校協働活動の内容等を幅広く周知するとともに、研修会の実施等で活動の意義や目的、地域住民等の参画の重要性についての理解を得ることで、地域住民等の積極的、継続的な活動への参画を促します。

【情報提供・理解促進の取組の例】

教育委員会から地域住民等へ

- 自治体の広報やホームページ、ソーシャルメディア等の多様な媒体を活用した地域学校協働活動の情報発信



那須町広報（令和2年7月号）

学校から地域住民等へ

- 自治会など、地域に関係の深い組織・団体等のネットワークを活用した周知

2022年6月 コミュニティカレンダー

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	1	2
3	4					

自治会を通して配布するコミュニティカレンダー
栃木県立足利工業高校・足利市立第一中学校

教育委員会から学校へ

- 学校の教職員を対象とした地域学校協働活動に関する情報の提供



芳賀四町教育研究協議会（令和4年3月）

- 地域学校協働活動の実施により期待できる効果の確認や各学校及び地域の目標や課題を共有する研修等の機会の設定



教職員と地域住民が参加した研修会
野木町立友沼小学校

第一章基本編

整備・導入期

ビジョンの共有

コミュニティ・スクールの導入

地域学校協働

地域連携教員

地域コーディネーター

運営期

熟議の実施

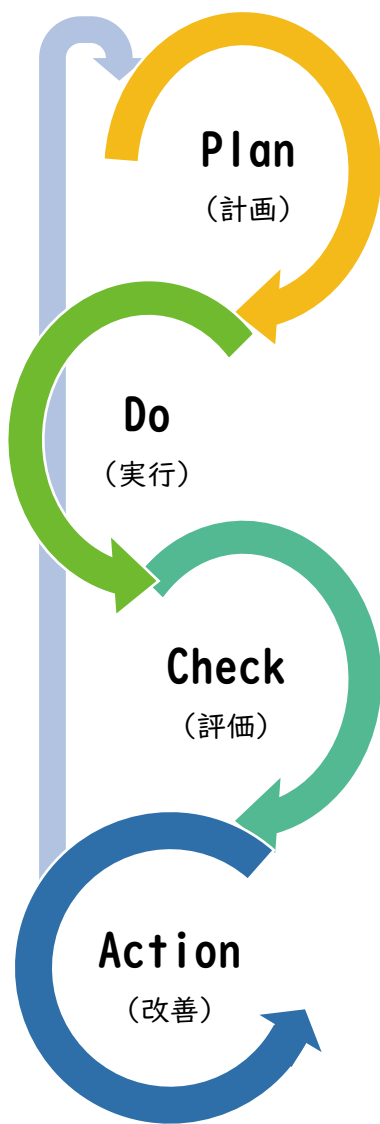
地域住民の参画

情報提供促進

PDCA

学校と地域の連携・協働を効果的、継続的に行うためには、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進」が求められています。

そのために、地域コーディネーターを中心として、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の関係者が学校と地域の目標や課題、学校運営協議会における協議の結果等の情報を共有し、相互に連携・協働した活動を実施するとともに、活動の評価や改善を行い、次の取組につなげていくといったPDCAサイクルを構築することが大切です。



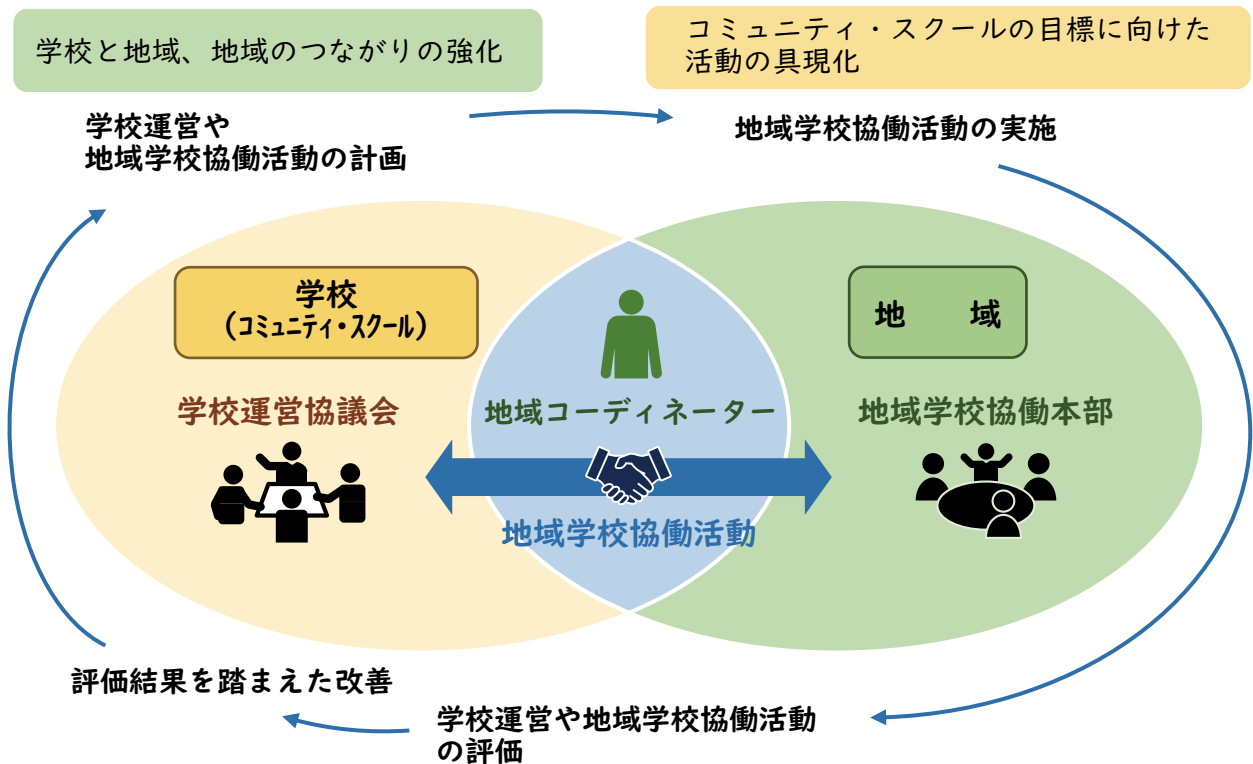
【学校運営協議会】	【地域学校協働本部】
学校運営の基本方針の承認 ビジョンや目標の設定 ・熟議の実施 学校や地域の情報の共有 学校運営や地域学校協働活動の計画	学校運営協議会の協議の結果を踏まえた計画 ・地域学校協働活動の実施計画の作成と連絡調整
	地域学校協働活動の実施 ・授業補助、ふるさと学習 ・本の読み聞かせ活動 ・登下校の見守り ・放課後子ども教室 等
学校評価の実施 ・学校の教育活動の評価 ・地域学校協働活動の評価	
評価結果を踏まえた改善 ・目標の見直し ・新たな課題への対応の協議 ・学校の教育活動や地域学校協働活動の改善のための協議	学校運営協議会の協議の結果を踏まえた活動の改善 ・目標の確認 ・学校の教育課程との関連付け ・具体的な方法の企画立案

【PDCA サイクル構築の際の留意点】

- ・これまでの取組の総点検を行うことから始める。
- ・続けるべき取組とやめるべき取組、学校、家庭、地域がそれぞれの責任で担う取組、協働で担う取組を明確にする。
- ・ビジョンや目標を実現するために必要な地域学校協働活動を実施する。
- ・学校評価は、評価の結果を受けて学校の教育活動や地域学校協働活動の改善を行うことができるような実施時期や回数とする。

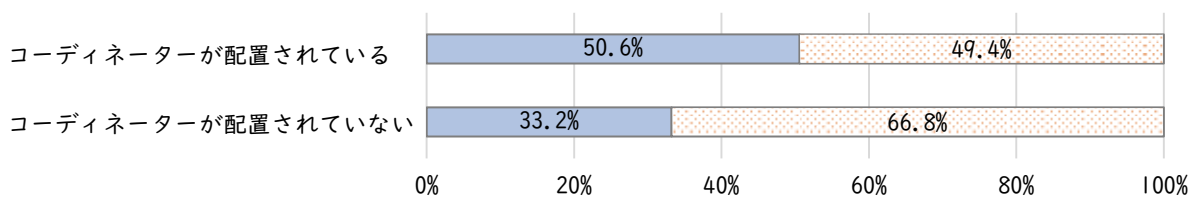
■ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

コミュニティ・スクールの取組によって、学校と地域、そして地域のつながりが強化され、地域学校協働本部が活性化します。また、地域学校協働活動の取組は、コミュニティ・スクールの目標の具現化につながります。このように、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動（地域学校協働本部）を一体的に推進することで相互に効果を高め合うことが期待できます。

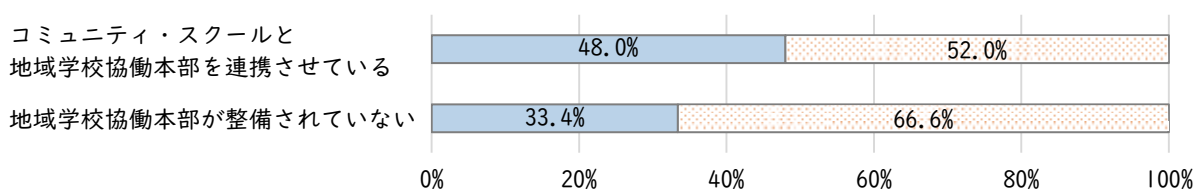


コミュニティ・スクールの学校長を対象とした調査では、地域コーディネーターの配置や地域学校協働本部との連携がある学校は、コミュニティ・スクールの成果の実感が高い傾向にあることが報告されています。

【地域コーディネーターの配置の有無と学校運営協議会の活動は有益だと感じている学校の割合】



【地域学校協働本部との連携の有無とコミュニティ・スクールが有益だと感じている学校の割合】



■ あてはまる ■ まああてはまる・あまりあてはまらない・あてはまらない・無回答

出典：令和2年度文部科学省委託事業「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」令和3(2021)年

コラム 学校と地域の連携・協働と学校における働き方改革

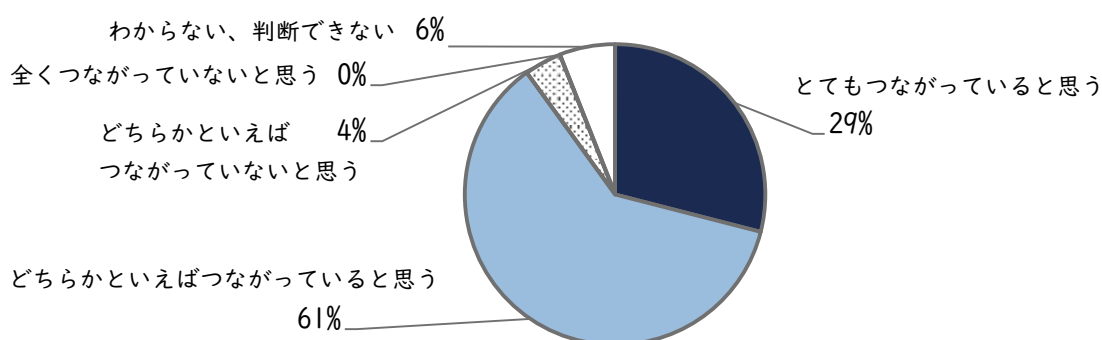
学校と地域の連携・協働の推進に当たり、学校の負担軽減という視点を持ち、学校がやるべきこと、家庭がやるべきこと、地域がやるべきことの役割分担を図っていくことで、教職員が子どもと向き合う時間の確保へとつながることが期待できます。

【学校と地域の連携・協働による「学校における働き方改革推進」に係るアンケート結果】

令和4(2022)年度学校と地域の連携推進モデル事業実践校の教職員 n=70

(設問)

学校と地域の連携・協働を進めることは、「学校における働き方改革」を推進することにつながっていると思いますか。



(設問)

「学校における働き方改革」につながっていると思われる活動は、どのようなものですか。



■ 学校における働き方改革推進プランとの関連

栃木県教育委員会では、「学校における働き方改革推進プラン」を策定し、本県教職員の働き方改革を推進しています。学校における組織的な改善の取組の一つとして設定した「地域・保護者・関係機関等との連携」については、学校の管理職向けに次の評価項目を示しています。

- ・学校経営方針を保護者、地域住民に周知し、共有を図っているか。
- ・地域や保護者等の外部人材と連携した活動を行っているか。

第2章 実践編

■事例1	コミュニティ・スクールの導入に向けて #体制整備・導入	#コミュニティ・スクール	市貝町立市貝中学校 #学校支援ボランティア	26
■事例2	学校地域応援団とコミュニティ・スクールの整備・導入による一体的推進に向けて #体制整備・導入	#コミュニティ・スクール	佐野市立葛生小学校 #地域学校協働活動	27
■事例3	地域とのつながりと学校支援ボランティアの導入 #学校支援ボランティア	#地域コーディネーター	栃木県立今市特別支援学校 #特別支援学校	28
■事例4	熟議をとおした既存の活動の充実 #熟議	#既存の活動の充実	さくら市立熟田小学校 #地域学校協働本部	29
■事例5	「ふなっこチャレンジウォーキング」の誕生 #熟議	#新しい関係性の構築	塩谷町立船生小学校 #地域学校協働本部	30
■事例6	目標の共有による協働の推進 #学校と地域の役割分担	#熟議	宇都宮市立御幸小学校 #地域学校協働活動	31
■事例7	大人も子どもも楽しむ地域学校協働活動 #地域団体との関わり	#多様な主体との関わり	日光市立今市小学校 #地域学校協働本部	32
■事例8	地域の多様な人々との関わりから学ぶ #小中一貫・小中連携	#多様な主体との関わり	下野市立国分寺中学校 #コミュニティ・スクール	33
■事例9	「ましこ未来大学」などのコース別探究学習 #町行政との関わり	#キャリア教育	栃木県立益子芳星高等学校 #新しい関係性の構築	34
■事例10	既存の取組を充実させるために #既存の活動の充実	#地域資源	大田原市立湯津上中学校 #コミュニティ・スクール	35
■事例11	地域資源の“梅”を使った地域学校協働活動 #地域資源を生かした継続的な取組	#地域コーディネーター	上三川町立上三川中学校 #地域学校協働活動	36
■事例12	学校支援ボランティアとの連携・充実 #学校支援ボランティアの募集及び連携	#情報提供・理解促進	真岡市立真岡東中学校 #コミュニティ・スクール	37
■事例13	地元の魅力「稲葉ふるさと学習」を発信しよう #情報提供・理解促進	#既存の活動の充実	壬生町立稲葉小学校 #地域学校協働本部	38
■事例14	学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進 #体制を生かした継続的な取組	#コミュニティ・スクール	那須町立那須中学校 #地域学校協働本部	39

事例Ⅰ コミュニティ・スクールの導入に向けて

－地域連携に係る教職員の意識の醸成と地域と学校との連携事業の実践－

市貝町立市貝中学校

事例のポイント

体制整備・導入 # コミュニティ・スクール # 学校支援ボランティア

連携・協働の体制



取組の概要

▶ 研修会をととした学校・地域への理解の促進

学校と地域の関係者で構成される会議を開催し、既存の学校行事や授業等の中で、地域と協働してできるものを洗い出すとともに「地域とともにある学校づくり」について話し合った。

研修会は、参加者を校内教職員に限らず、町内各小学校や学校支援ボランティア、PTA役員など多くの関係者に周知した。参加者は「地域で子どもを育てることや、子どもの教育に関わることの大切さが分かった」など、地域連携に向けての意識を高めることができた。



様々な立場の方が参加した研修会

▶ 目標の共有から具体的な取組の検討へ


会議を重ねていくうちに、図書ボランティアと生徒が協働できないかという提案があり、図書委員の生徒との交流を行った。お互いがどのような活動をしているか発表し合うことで、理解を深めた。和やかな雰囲気の中で、今後やってみたいことを挙げたり、新刊本の受入れ作業を一緒に行ったりすることができた。



ボランティアとの新刊本の受入れ作業

▶ 導入に向けた体制づくり

これまでの会議では、学校と地域の関係者が丁寧に話し合いを進めていくことでお互いを理解し、よい関係を築くことができた。体制づくりについても、学校や地域の実情、地域性に配慮しながら、学校と地域の双方の思いを生かすことができるよう、時間をかけて計画的に進めていく。

学校	推進のヒント	地域
・PTA役員や教職員、地域コーディネーター、学校支援ボランティアをつなぎ、「顔の見える関係」を築くこと	 推進のヒント	・学校支援ボランティア、地域コーディネーター、教職員が同じ研修を受けることで、お互いを理解しよい関係が築けること

事例 2

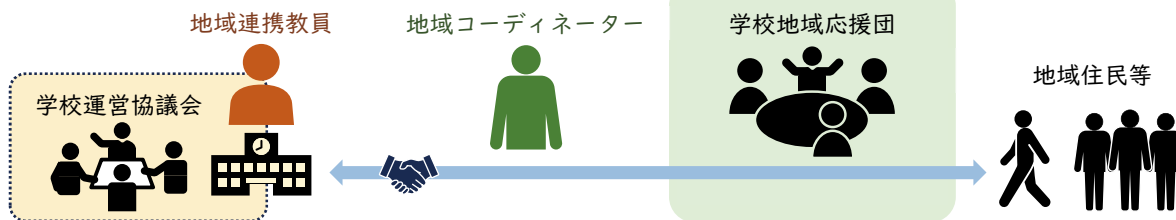
学校地域応援団とコミュニティ・スクールの整備・導入による一体的推進に向けて

佐野市立葛生小学校

事例のポイント

体制整備・導入 # コミュニティ・スクール # 地域学校協働活動

連携・協働の体制



※学校地域応援団：佐野市の地域学校協働本部の呼称

取組の概要

▶ 研修会をととした学校・地域へ理解の促進

学校と地域の連携・協働の必要性に関する協議、校長の経営方針の具現化に向けた連携活動の協議を行い、地域が学校の方針を理解して教育活動を支援することの大切さ等を確認した。また、学校支援ボランティア及び管理職を含めた教職員対象の研修を開催し、協議会の役割や意義等について理解を深めることができた。



教職員対象の研修

▶ 地域コーディネーターを中心とした取組

学校が地域コーディネーターを選任し、コロナ禍においても実施可能な活動を検討することで、地域コーディネーターを介した教育活動への支援に取り組むことができた。

地域コーディネーターが連絡調整を行い、学校支援ボランティアによる「読み聞かせ」「生活科のまち探検の補助」「家庭科のミシン・手縫いの補助」「吹奏楽部の指導」を実施したことにより、地域の教育力を活用した教育活動の重要性を再確認した。



5年生家庭科の手縫いの補助

▶ 整備・導入に向けた取組

学校運営協議会の第1回会議で行われる校長の学校経営の方針の説明とその具現化のための熟議を行い、コミュニティ・スクール導入後の学校経営の在り方について理解を深めた。また、地域コーディネーターの紹介や学校と地域の連携・協働の必要性を記載したリーフレットを作成し、当該地域の住民に全戸配布することで、学校運営協議会と学校地域応援団について周知した。

学校	 推進のヒント	地域
<ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターと連携を密にし、学校支援ボランティアの活躍の機会を設定すること 		<ul style="list-style-type: none"> ・研修会に参加し、学校と地域が連携・協働することは、自分たちの生きがいになり、地域の活性化につながることを理解すること

事例3 地域とのつながりと学校支援ボランティアの導入

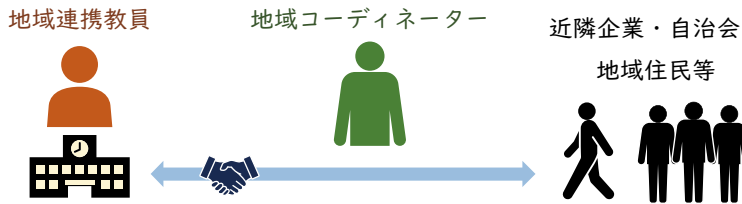
ー地域連携交流会の実践を核にした連携活動の展開ー

栃木県立今市特別支援学校

事例のポイント

学校支援ボランティア # 地域コーディネーター # 特別支援学校

連携・協働の体制



取組の概要

▶ 学校を知ってもらう取組

「学校開放講座」を行い、地域の方に本校の授業を体験していただく機会を設けている。

「いまとく回覧板」を年に2回発行し、近隣地域の回覧板で回している。また、地域の信用金庫に、児童生徒の作品展示スペースを常設していただいている。2か月に一度作品を入れ替えることで、地域の方々に関心をもって見てもらえるようにしている。



地域での作品展示スペース

▶ 学校から地域への地域貢献活動

近隣自治会の公民館清掃やごみ拾い、介護老人保健施設の清掃を高等部生徒が行っている。

また、高等部生徒が育てた花の苗を、中学部生徒がプランターに植え、近隣自治会の公民館に設置している。




地域連携交流会

▶ 地域連携交流会の開催

～充実した学校支援ボランティアの活動に～

教職員、地域コーディネーター、近隣自治会、近隣企業、市教育委員会等の関係者が一堂に会して「地域連携交流会」を開催している。本校への理解を得ると共に、学校のニーズと地域の方々のできることを共有する場としている。

話し合いから、駅での登校見守りや徒歩学習の見守りなどのボランティアが始まった。図書室の環境整備、行事の補助、教材作成など少しずつボランティア活動の内容が広がっている。

学校	推進のヒント	地域
<ul style="list-style-type: none"> 学校のニーズを地域に明確に伝えること 全教職員を対象に校内研修を行い、地域連携についての理解を深めた上で、学校支援ボランティアについての共通理解を図ること 本校の長期計画（ビジョン）に沿って活動を計画的に進めること 	 推進のヒント	<ul style="list-style-type: none"> 学校に理解のある方が地域コーディネーターを務めること 地域が無理なくできる活動の提案をすること 学校が実施する、学校を知ってもらうための様々な取組に関わること

事例のポイント

熟議 # 既存の活動の充実 # 地域学校協働本部

連携・協働の体制



※地域と学校を結ぶコーディネーター：さくら市の地域学校協働活動推進員の呼称

取組の概要

▶ 学校と地域の方との熟議

校内研修では、学校職員と地域の方が「地域で育てたい子どものすがた」というテーマで熟議を行い、課題を共有した。熟議では、共有したビジョンの実現に向けて、課題を明らかにして具体的な行動を考えることをとおして、参加者が当事者意識を高めた。



様々な立場の方が参加した研修会

▶ 既存の活動から緩やかなつながりづくりへ

学校職員、地域住民、市教育委員会関係者が参加した会議では、既存の地域学校協働活動である「星空映画会」の開催について協議した。

地域のボランティア団体「地域子どもプロジェクトS・S（スモールシード）」が主体となり、「さくらウインドアンサンブル」や地元消防団、学校が連携・協働し「星空映画会」を実施した。

学校と地域ボランティア団体の役割分担を明確にして、準備・運営をすることができた。幅広い立場の地域住民が積極的に事業に参加し、「学校を核とした地域づくり」の意識が高まった。



星空映画会

▶ 学校と地域の連携・協働の体制を生かした成果

熟議を行い、学校と地域が目標を共有することで、既存の学校支援の仕組みを基盤としつつ、保護者・地域住民との連携・協働の体制の見直しにつながった。また、地域コーディネーターの連絡・調整により、新たな地域ボランティア団体が活動に加わり、既存の活動が充実した。

学校	 推進のヒント	地域
・ 地域の方と顔の見える関係を築き、地域の思いを知ることで、地域連携についての理解を深めること		・ 子どもとの体験活動を通じて、地域のつながりを深めること

事例5 「ふなっこチャレンジウォーキング」の誕生

—地域で育てたい子どもの姿に迫るための学校と地域の協働による新たな活動づくり—
塩谷町立船生小学校

事例のポイント

熟議 # 新しい関係性の構築 # 地域学校協働本部

連携・協働の体制



取組の概要

▶ 関係者による熟議の実施

学校職員、地域住民、町教育委員会関係者による地域連携研修会「船生の子どもたちを考えよう～地域と学校の価値ある連携・協働のために～」を開催した。

研修会は熟議を中心とした全2回とし、研修の学びが広がるような構成とした。



船生小学校区地域連携推進研修

▶ 目標の共有から具体的な取組の検討へ

第1回研修では「育てほしい子どもの姿」の目標を共有し、第2回研修では地区の強みを生かして「育てほしい子どもの姿」に迫るための具体的な取組を「船生の子どもをみんなで育てる〇〇作戦」として検討した。

▶ みんなが参画できる地域の魅力発見を手段とした活動づくり

研修で検討した「作戦」を基に、児童や保護者、地域住民、行政関係者等が参画し、船生地区に設定したウォーキングコースを巡りながら、自分たちが住む町の名所や歴史の魅力を発見する「ふなっこチャレンジウォーキング」の活動ができた。



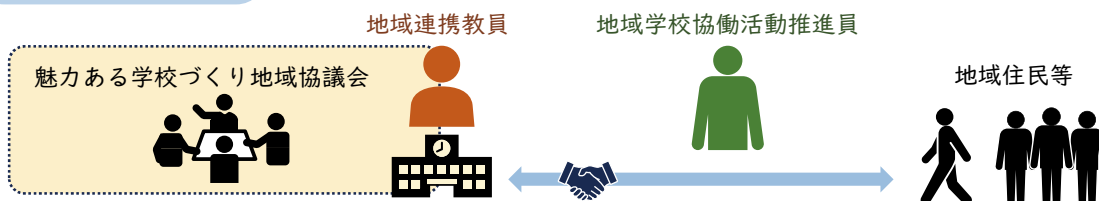
ふなっこチャレンジウォーキング

学校	💡 推進のヒント	地域
<ul style="list-style-type: none"> 職員全員が研修会に参加し、地域の方と熟議を行うこと 授業との関連を踏まえ、無理なく活動ができる内容とすること 		<ul style="list-style-type: none"> 協議をとおして、地域の意見を学校と共有すること 一方向の学校支援ではなく、地域住民等が協働活動の企画・運営に関わる機会を設けること

事例のポイント

学校と地域の役割分担 # 熟議 # 地域学校協働活動

連携・協働の体制



※魅力ある学校づくり地域協議会：宇都宮市の小・中学校に設置されている「地域ぐるみの子育て」に取り組む組織

取組の概要

▶ 地域フォーラムによるビジョンの共有

地域フォーラム「みゆきっ子について語ろう」では、保護者と教職員、地域関係者が、子どもや御幸地区の良いところについて熟議を行い、「この学校の子どもの姿や、この学校に協力したいこと」を共有した。地域のあいさつ運動実施の提案がなされ、学校と地域、保護者、児童会によるあいさつ運動の展開につながった。



地域フォーラム

▶ トイレ清掃ボランティアによる地域の方々の意識の変容

学校と地域学校協働活動推進員が話し合いを重ねることで地域の方々の意識が変容した活動が、トイレ清掃スペシャルデーである。以前は、学校からの依頼に応えるために、地域の方々が子どもの代わりにトイレ清掃を行っていたが、ボランティアがトイレ清掃の方法を子どもに習得させながら一緒に実施するなど、目的意識を持って活動するようになった。

▶ 協働活動の実施が子どもの成長を支える

あいさつ運動では、子どもたちが多くの地域住民や保護者からほめられる経験をたくさん重ね、大きな声で主体的に挨拶ができるようになった。また、トイレ清掃では、上級生が身につけたトイレ清掃の方法を下級生に伝えることで、トイレがきれいに保たれるとともに、上級生の自己有用感の向上につながった。学校と地域が子どもを育てるビジョンを共有し、協働活動を実施することが、新たな成果を上げることにつながっている。



あいさつ運動

学校	💡 推進の ヒント	地域
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域とともに子どもの成長を支えるために、地域との共通理解を図ること ・ 既存の活動を充実させること ・ 役割分担を明確にすること 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな地域住民の参画のために、地域フォーラム等の意見交換の機会を学校と共催で設けること

事例のポイント

地域団体との関わり # 多様な主体との関わり # 地域学校協働本部

連携・協働の体制



取組の概要

▶ 地域団体との関わり経緯

運動会への協力から始まった、今市小の父親たちによる「ICMおやじの会」の活動が4年目を迎え、地域に代々受け継がれている「子どもファースト」を合言葉に、人と人とのつながりを大切に、地域の中で健やかに育つ子どもの育成を目指し、連携・協働活動を行っている。



薪割り体験

▶ 地域の熱心な大人との協働

防災訓練キャンプの開催にあたり、「ICMおやじの会」が中心となって目標・内容等の検討を行い、非常時を想定したAED使用体験、魚つかみ取り、ドラム缶風呂体験等を実施した。

参加する大人が、「地域とともに歩み続ける理想の学校にするために貢献したい」という願いと「今市小をいつまでも愛する子どもたちになってほしい」という熱い気持ちを持ち、子どもたちと接している。


学校は協力する立場として携わり、ボランティア参加者が主体的に子ども中心の活動を企画し、充実した活動を展開することで、関係者のネットワークがより強固になり、幅広い連携につながった。



キャンプファイヤーでのお楽しみ
“焼きマシュマロ”

▶ 持続可能な体制づくり

後継者育成のため、会の立ち上げ時の代表は役を退き、短い任期で新たな代表に引き継ぐことで、持続可能な体制づくりが進められている。

学校	推進のヒント	地域
<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な人たちに対して研修を実施し、連携・協働活動の意識を高めること ・ 地域の既存の団体等に積極的な声掛けをすること 	 推進のヒント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域にある資源、ネットワークを活用して企画運営を行うこと ・ 大人も子どもも楽しむこと（子どものためであり、自分たちのためである）

第2章 実践編
整備・導入期
体制整備・導入
学校支援ボランティア
運営期
熟議
学校と地域の役割分担
地域団体
小中一貫
行政
既存の活動の充実
地域資源
情報提供促進
体制を生かした取組

事例のポイント

#小中一貫・小中連携

#多様な主体との関わり

#コミュニティ・スクール

連携・協働の体制



取組の概要

▶ 中学校区の意識の共有

各小中学校の地域連携教員が一堂に会し、目指す子ども像について共通理解を図り、その実現に向けて、小中一貫教育に関連した各取組の詳細について協議を重ねた。

▶ 目標の共有から具体的な取組の検討へ

新たに協働事業を起こすのではなく、今まで行ってきた取組を「学校と地域の連携」という視点で見直し、組織的に取り組んでいけるよう、熟議を重ねた。

中学校区内の小学校での本の読み聞かせや里山活動は、地域のボランティアやシルバー人材センターの方々に指導をいただき実施した。また、各小中学校に作品展示スペースを設け、互いの作品を展示し合うことで作品交流を行った。中学校1年生の総合的な学習の時間「下野市の農産物をブランド化しよう」においては、市内事業所や生産者の方々に訪問し、体験学習を行った。



読み聞かせ



総合的な学習の時間での生産者訪問

▶ 無理なく様々な活動が行えるネットワークづくり

小中一貫の体制で実施したことにより、市の学校教育課、生涯学習文化課、文化財課、農政課や地域のボランティア、事業所、生産者の方々とのつながりが深まり、地域とのネットワークが広がった。地域の方々との活動をとおして、生徒たちは達成感を味わい、地域を知ることによって地域のために貢献したいという意欲がさらに高まった。

学校

・ 今までの取組を「学校と地域の連携」という視点で見直し、小中一貫教育と関連させて実践すること



地域

・ 地域にあるヒト・モノ・コトを無理のないように活動に取り入れること

事例9 「ましこ未来大学」などのコース別探究学習

ー益子町との包括連携協定等による様々な地域資源の学校教育への活用ー

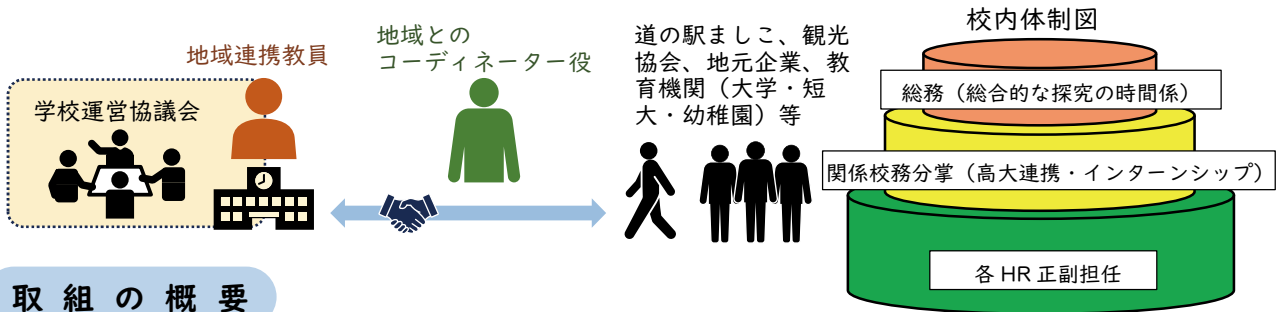
栃木県立益子芳星高等学校

事例のポイント

#町行政との関わり #キャリア教育 #新しい関係性の構築

連携・協働の体制

- 地域連携教員が窓口となり、探究学習の企画作成は学校の各係が直接依頼
- 学校運営協議会委員や町役場職員が地域とのコーディネーター役



取組の概要

▶ 地域との協働によるコースごとの学習内容を踏まえた探究活動の展開

2年次からコースに分かれた学習を行っており、各コースの学習内容を踏まえて、地域と関わる探究活動を実施している。

コース名	取組内容
文理総合	地域課題解決学習 ～生涯学習課主管事業「ましこ未来大学」への参加～ 複数の分野に携わっている人から町の困りごとを聞き、その困りごとについて、自分たちなりの解決策(アクションプラン)の作成・発表を行った。
生活文化	道の駅ましこのPR活動 ～アイデアレシピ・ポップ(フロアマップ)作成～ 実際に道の駅を見学。レシピやポップなど専門的知識が必要なところは地元大学の先生を招いて、講義を行ってもらった。
情報科学	インターンシップ 地元企業の協力を得て3日間実施している。コロナ禍で実施できなかったときは、地元で活躍する方を招いての座談会を行った。




ましこ未来大学 町内巡検の様子

▶ 地域住民の学校への理解を促進するための取組

学校運営協議会の委員に、活動内容の理解促進のために、年に一度実施する探究学習の成果発表会に参加いただいている。理解が進んだ委員の支援により、探究学習の成果物を作成し、道の駅や公民館に配布することができた。

また、地域住民の学校の教育活動への理解促進を目的として、町の生涯学習振興大会における「未来大学」で作成したアクションプランの発表会や、プラン実行におけたサポートを行っている。

学校	推進のヒント	地域
<ul style="list-style-type: none"> 各コースの探究活動の企画・運営の担当者を明確にすること 地域連携活動の実施記録を一覧表にまとめ、評価や改善に活用すること 全教員が担当できるように、役割分担を明確化すること 	 推進のヒント	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の活動の支援や授業でのグループ活動への参加などに関わることに 生徒が地域活動に参加できる機会や地域住民とつながる機会を設けること

既存の取組を充実させるために —地域の歴史的文化財を生かした活動の充実— 大田原市立湯津上中学校

事例のポイント

既存の活動の充実 # 地域資源 # コミュニティ・スクール

連携・協働の体制



取組の概要

▶ 学校と地域の目標の共有

本地区の地域資源（ヒト・モノ・コト）との連携・協働により、既存の活動を拡充するために必要な方策について協議した。

学校と地域が同じ思いをもって学校と地域の連携・協働の推進に取り組むために、生徒・教職員・保護者・地域住民等が一堂に会する場を設定して、「学校と地域の連携・協働」をテーマに研修会を実施した。



協議の様子

▶ 既存の活動の拡充

コロナ禍においても、「学校と地域の連携・協働」を推進しようと、高齢者宅訪問を手作りマスクと絵手紙を贈る活動に変更することで間接的に交流を図った。また、生徒がりモートで講話を聴いたり、地域の歴史的文化財を生かした屋外での活動や地域貢献活動等を実施したりした。ほかにも、登下校時等で困ったときに頼れる場所となる「あんしん家」の方々との顔合わせを行い、既存の活動がより充実したものになるよう取り組んでいる。

更に、コミュニティカレンダーの活用や缶バッジ製作によって、家庭や地域に連携・協働についての周知啓発を行っている。



地域貢献活動（こも巻き）

▶ 連携・協働の体制を生かして取り組んだ成果

活動をとおして、生徒たちは地域の良さや地域とのつながりを実感することができ、地域活動への参画意識の向上につながった。

学校	 推進の ヒント	地域
・新しいことを始めるのではなく、既存の活動と組織を地域の人たちと一緒に見直すこと		・地域の子どもたちとの連携・協働は、自分たちの地域を活性化させることを理解すること

事例 II 地域資源の“梅”を使った地域学校協働活動

— 学校支援コーディネーターの熱意と多様な主体との連携 —

上三川町立上三川中学校

事例のポイント

地域資源を生かした継続的な取組 # 地域コーディネーター # 地域学校協働活動

連携・協働の体制



※学校支援コーディネーター：上三川町の地域コーディネーターの呼称

取組の概要

▶ 目標の共有から具体的な取組の検討へ

地域資源である「梅」を使ったシロップ作りは、生徒や学校支援ボランティアが主体的に参加し、学校と地域が連携しながら実施した活動である。

学校支援ボランティアとの交流を通して、生徒の主体性、地域や学校を愛する気持ちを育むという共通の目標の実現に向け、具体的な取組の方策を考えた。



梅と氷砂糖の漬け込み

▶ 学校支援コーディネーターの関わり


学校支援コーディネーターが持つネットワークを活用し、活動の楽しさ、子どもたちの喜ぶ姿を広く紹介して協力者を募集した。その結果、学校支援ボランティアのほか、専門家からの梅シロップの作り方に関するアドバイスや校章が入ったラベルの印刷、地域の店舗での販売などの協力が得られ、地域の多様な主体が持つ特色を生かした活動へと広がった。



地元団体への聞き取り

▶ 継続した活動につながる取組

生徒が継続して参加できる環境を学校が整え、積極的に参加募集を行ったことで、シロップ作りに取り組む生徒が増加し、地域の方々や教職員と一緒に楽しみながら主体的に活動するようになってきている。また、作った梅シロップの販売により、資金面での心配が減少したことも長く活動できる理由となっている。

学校	推進のヒント	地域
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域と目標を共有すること ・ 生徒が主体的に取り組むやすい環境づくりに努め、積極的に参加募集をすること ・ ホームページや広報紙等で活動を地域に周知すること 	 推進のヒント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の多様な主体が地域コーディネーターのネットワークによりつながること ・ 協働活動の目的に賛同し、それぞれの特色を生かして活動に取り組むこと

事例のポイント

学校支援ボランティアの募集及び連携 # 情報提供・理解促進 # コミュニティ・スクール

連携・協働の体制



取組の概要

▶ コミュニティ・スクール1年目の取組

令和4年度からコミュニティ・スクールを導入し、学校運営協議会において「どのような子どもを育てていくのか」について、学校と地域とで目標の共有を図った。

学校支援ボランティアが授業や学校行事に多く関われるようにするために、ボランティアの募集方法等を見直し、地域コーディネーターと分担して広く周知した。さらに、学校では年間計画に学校と地域の連携・協働を適切に位置付け、学校支援ボランティアとの協力関係を構築している。



学校運営協議会の様子

▶ 地域学校協働活動に対する地域住民の理解の促進


ホームページや学校だより、新聞への掲載などで、地域学校協働活動について広く地域住民に周知している。また、年度ごとに学校支援ボランティアの募集を行い、義務感や負担感の軽減を図っている。



「東中パパさん学校応援隊」の活動

▶ 学校支援ボランティアとの連携

教師へのニーズ調査や学校運営協議会での熟議の結果から、校内の消毒、清掃などへのボランティアの必要性について理解が広がり、支援の輪が広がった。また、生徒の教育環境が少しでもよくなるように「東中パパさん学校応援隊」が組織され、校内環境整備を中心に活動している。

学校	推進のヒント	地域
<ul style="list-style-type: none"> ・子どものために行っていることが大人の自己有用感につながるよう、活動の趣旨を丁寧に説明し理解を得ること ・連携・協働に向け、学校や教師の等身大の姿を理解していただくこと 	 推進のヒント	<ul style="list-style-type: none"> ・顔の見える関係づくりや地域住民同士のつながりを生み出すために、活動後の情報交換の機会をその都度設けること

事例 13 地元の魅力「稲葉ふるさと学習」を発信しよう

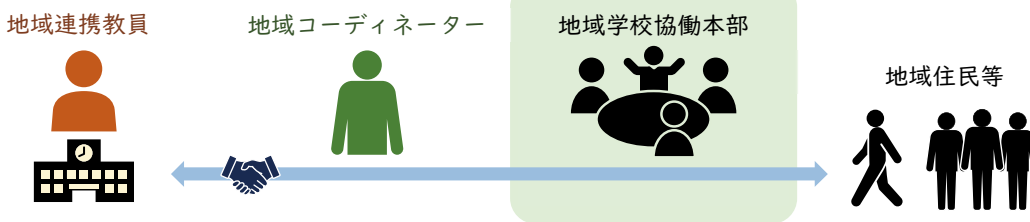
— 多様な情報発信の取組 —

壬生町立稲葉小学校

事例のポイント

情報提供・理解促進 # 既存の活動の充実 # 地域学校協働本部

連携・協働の体制



取組の概要

▶ 学校と関係者の意識の共有

既存の学校支援の仕組みを基盤とした、連携・協働の体制づくりに関する協議や、「これからの学校と地域のあり方」についての研修を行い、教職員、関係者の協働活動についての理解が深まった。



教職員・関係者の研修

▶ 目標の共有から具体的な取組の検討へ

学校と地域のそれぞれの役割分担を明確にするとともに、協働のための体制を整備し、稲葉地区の農業や特産物、史跡、歴史などに主眼を置いた地域（ふるさと）学習の充実を目指した取組を実施した。


▶ メディアを活用した情報発信の工夫

地元の新聞社やテレビ局に依頼し、地域学校協働活動の取組、地域ボランティアの紹介、「稲葉ふるさと学習」の様子等について取材してもらうなど、メディアを活用した広報活動を行った。



稲葉ふるさと学習

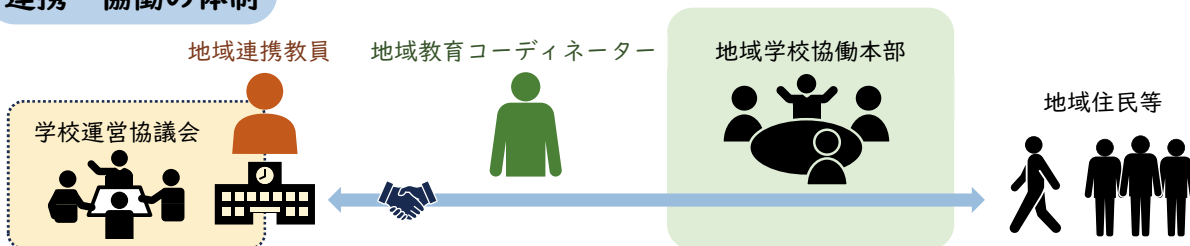
また、通常の学校だよりのほか、特別号として、「地域連携だよりの」を地区内全戸に年2回配布し、学校の取組、地域ボランティアの紹介、「稲葉ふるさと学習」の様子などの情報を提供した。

学校	推進のヒント	地域
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域学校協働活動の様子をメディア等を活用し広く周知することで、子どもたちのふるさとを大切にする心情を育み、更なる活動の意欲向上につなげること 	 推進のヒント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民に地域学校協働活動の様子や地元の魅力について周知し、地域全体で子どもたちを育てようとする気運の醸成につなげること

事例のポイント

#体制を生かした継続的な取組 #コミュニティ・スクール #地域学校協働本部

連携・協働の体制



※地域教育コーディネーター：那須町の地域コーディネーターの呼称

取組の概要

▶ 会議・研修の充実

既存の活動である「水曜講座」の充実を図るための方策について協議した。

生徒の学びを地域で生かすことや、より多くの地域住民が参画できる体制を整えること等、学校と地域が協働し、地域学校協働活動を双方向性のある活動として整えていくことの重要性を確認した。

▶ 学校運営協議会の委員の主体的な関わり

「地域とともにある学校」を目指す観点から、水曜日の放課後に学校の施設を利用して「水曜講座」（地域学校協働活動）を実施した。生徒たちにとってロールモデルとなる「魅力的な大人（講師）」は、すべて学校運営協議会委員のネットワークを生かして依頼し、多岐にわたる講座を開設している。

▶ 学校運営協議会の活性化と地域での成果

学校と役割を明確に分担し、学校運営協議会が主体となり、委員一人一人が当事者意識をもって取り組むことで、協議会の活性化につながった。

地域にとっては、地域住民が水曜講座等に参画したことがきっかけとなり、地域のネットワークが形成され、地域ぐるみの支援へと広がりを見せている。



連携会議の様子



水曜講座「大工さん」

学校	💡	地域
<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を形骸化させないために、役割を明確にし、それぞれが主体となって活動できる体制をつくること 	<p>推進のヒント</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の委員一人一人が当事者意識をもって取り組むこと 講座の設定や講師の依頼等、各委員が責任をもって活動の運営に取り組むこと

コラム 悩んだときはこう切り抜けた

学校と地域の連携・協働を推進していく中で、取組がうまくいかないこともあるかもしれません。そこで、悩んだときの解決のヒントや取組のためのコツ等を紹介합니다。



学級担任を務めながら地域連携教員の職務を行うことが悩みなのですが。

担任である私一人だけで学校の窓口になることには限界があります。そこで、本校では自分以外の地域連携係（教頭、教務主任、学年主任等）が役割を分担し、学校全体が「チーム」となって地域と連携しています。「チーム」、つまり複数で対応することで、多様な連携活動が展開されています。このため、地域連携教員が代わっても、連携活動が継続的に、そして安定して実施することが可能になりました。



地域連携教員



合意形成が図りにくい時、どんなことに気を付けたらよいのだろう？

地域、学校、保護者をつないで新しい活動に取り組もうとすると、思うように進まないことがあります。多様な価値観がある中で、自分の考えに固執してしまうと、相手に反発されてしまいます。立場の異なる相手だからこそリスペクトを忘れず、思考や言動の背景に目を向けてみてはいかがでしょうか。二者択一だけに頼らない新たな一歩が見えてくるかもしれません。



教頭



学校のニーズに応じたボランティアを確保するにはどうしたらよいのだろう？

学校の支援ニーズに応じたボランティアの確保に困ったときは、市内のほかの学校の地域コーディネーターに相談し、ボランティアを確保することもあります。身近な地域の人との関わりやつながりだけでなく、地域コーディネーターの横のつながりも大切にしています。また、子どもとふれあうことで元気をもらっている地域の方々が多いので、積極的に声をかけるようにしています。



地域コーディネーター

参 考

■地域学校協働活動	42
■地域学校協働活動推進員	43
■コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）	44
■地域学校協働本部	45
■学校と地域の目指すべき連携・協働の姿	46



地域学校協働活動

地域学校協働活動は、社会教育法に基づき、地域の高齢者・成人、学生、保護者、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。






参
考

社会教育法（昭和24年法律第207号）抄

第5条

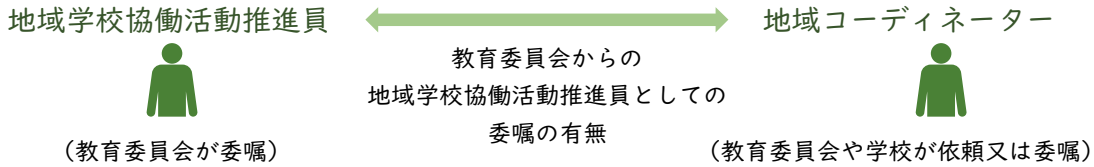
- 十三 学校の授業の終了後又は休業日において社会教育施設等で行う学習その他の活動
 - 十四 青少年に対しボランティア活動など社会奉仕体験活動、自然体験活動その他の体験活動
 - 十五 社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して学校、社会教育施設等で行う教育活動、その他の活動
- 2 前項第十三号から第十五号までに規定する活動であつて地域住民その他の関係者が学校と協働して行うもの（以下「地域学校協働活動」という。）

学校への多様な協力活動	放課後子ども教室	地域未来塾
<ul style="list-style-type: none"> 登下校の見守り、花壇や通学路等の学校周辺環境の整備、本の読み聞かせ、授業の補助や部活動の支援、企業等による出前授業等の教育プログラムの提供 など 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の参画を得て、放課後等に全ての子どもを対象に行う、学習や体験・交流等の多様な活動 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての児童生徒を対象に、教員OBや大学生などの地域住民等の協力によって行う学習支援
 <p>茂木町立茂木小学校</p>  <p>小山市立小山中学校</p>	 <p>鹿沼市 学びステーション鹿沼</p>  <p>那須町立那須中学校</p>	 <p>小山市 学びの教室</p>  <p>さくら市立氏家中学校</p>
 <p>佐野市立あそ野学園 義務教育学校</p>  <p>足利市立けやき小学校</p>		

家庭教育支援活動	ボランティア活動、地域の行事等への参画	学びによるまちづくり 地域課題解決型学習・郷土学習
<ul style="list-style-type: none"> 寄り添いが必要な子ども、不登校傾向の子ども等への対応を保護者が学び合う機会づくり等 	<ul style="list-style-type: none"> 地域におけるボランティア体験学習、地域行事での伝統文化の発表、防災訓練への参画等 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を理解し、その魅力のPRや、地域活性化のための方策を考え、実行する学習活動等 「ふるさと」について地域住民から学び、自ら地域について調査し発表する学習活動等 地域の産業や商店街の職場体験学習、郷土の伝統・文化芸能学習等
 <p>那須塩原市 親学習</p>  <p>栃木市 家庭教育学級子育て講座</p>	 <p>鹿沼市立栗野中学校</p>  <p>大田原市立湯津上小学校</p>	 <p>上三川町立明治小学校</p>  <p>矢板市立矢板小学校</p>

地域学校協働活動推進員

地域学校協働活動推進員は、社会教育法に基づき、教育委員会が委嘱する地域コーディネーターです。地域学校協働活動の組織的・継続的な実施を図るためには、地域学校協働活動推進員が具体的にやるべき業務の内容や、順守しなければならない事項等を明らかにした上で、教育委員会が責任をもって役割を依頼することが望ましいことから、委嘱を行うものです。



社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）抄

第 9 条の 7 教育委員会は、地域学校協働活動の円滑かつ効果的な実施を図るため、社会的信望があり、かつ、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者のうちから、地域学校協働活動推進員を委嘱することができる。

2 地域学校協働活動推進員は、地域学校協働活動に関する事項につき、教育委員会の施策に協力して、地域住民等と学校との間の情報の共有を図るとともに、地域学校協働活動を行う地域住民等に対する助言その他の援助を行う。

■ 地域学校協働活動推進員の役割

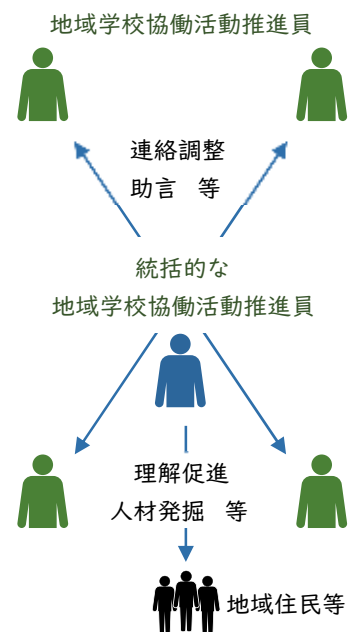
地域学校協働活動推進員の役割は、地域コーディネーターの役割と大きく変わるものではありません。

- ・ 地域や学校の実情に応じた地域学校協働活動の企画・立案
- ・ 学校や地域住民、企業・団体等の関係者との連絡調整
- ・ 地域ボランティアの募集や確保
- ・ 地域住民への情報提供、助言、活動促進 等

■ 統括的な地域学校協働活動推進員の役割

教育委員会は、より広域的な観点から、主に市町村等の域内における地域学校協働活動の推進を図る者として、必要に応じて「統括的な地域学校協働活動推進員」の委嘱を行うことができます。

- ・ 地域学校協働活動推進員間の連絡調整
- ・ 地域学校協働活動推進員への助言や事例の紹介
- ・ 地域住民の地域学校協働活動の理解の促進
- ・ 地域学校協働活動推進員の育成、人材の発掘・確保 等



■ 教育委員会による委嘱の手続き

地域学校協働活動推進員の委嘱の具体的な手続きや方法は、各教育委員会の判断によるものですが、概ね次のような手続きが想定されます。



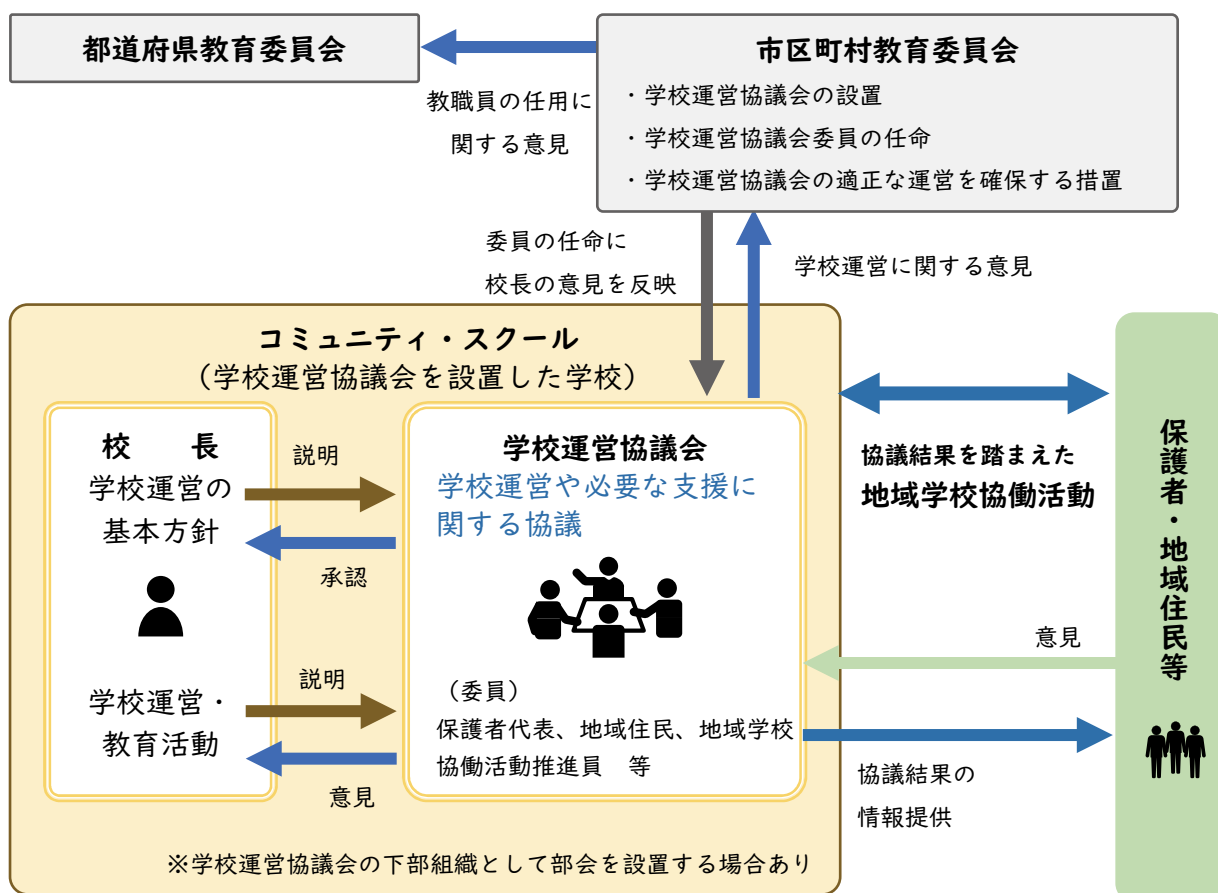
コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会制度を導入し、学校運営協議会を置く学校を指します。

学校運営協議会とは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育委員会から任命された委員が、一定の権限と責任を持って、学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関のことです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抄
 第47条の5 教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その所管に属する学校ごとに、当該学校の運営及び当該運営への必要な支援に関して協議する機関として、学校運営協議会を置くように努めなければならない。ただし、二以上の学校の運営に関し相互に密接な連携を図る必要がある場合として文部科学省令で定める場合には、二以上の学校について一の学校運営協議会を置くことができる。
 2 学校運営協議会の委員は、次に掲げる者について、教育委員会が任命する。
 一 対象学校の所在する地域の住民
 二 対象学校に在籍する生徒、児童又は幼児の保護者
 三 社会教育法に規定する地域学校協働活動推進員その他の対象学校の運営に資する活動を行う者
 四 その他当該教育委員会が必要と認める者

【コミュニティ・スクールの体制】



【コミュニティ・スクールの主な機能】

- ・ 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する
- ・ 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができる
- ・ 教員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる

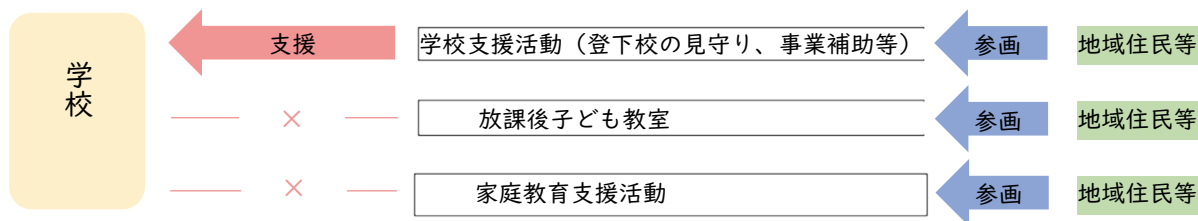
地域学校協働本部

地域学校協働本部は、従来の学校支援地域本部等の地域と学校の連携体制を母体として、より多くの、より幅広い層の地域住民等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制のことであります。

参
考

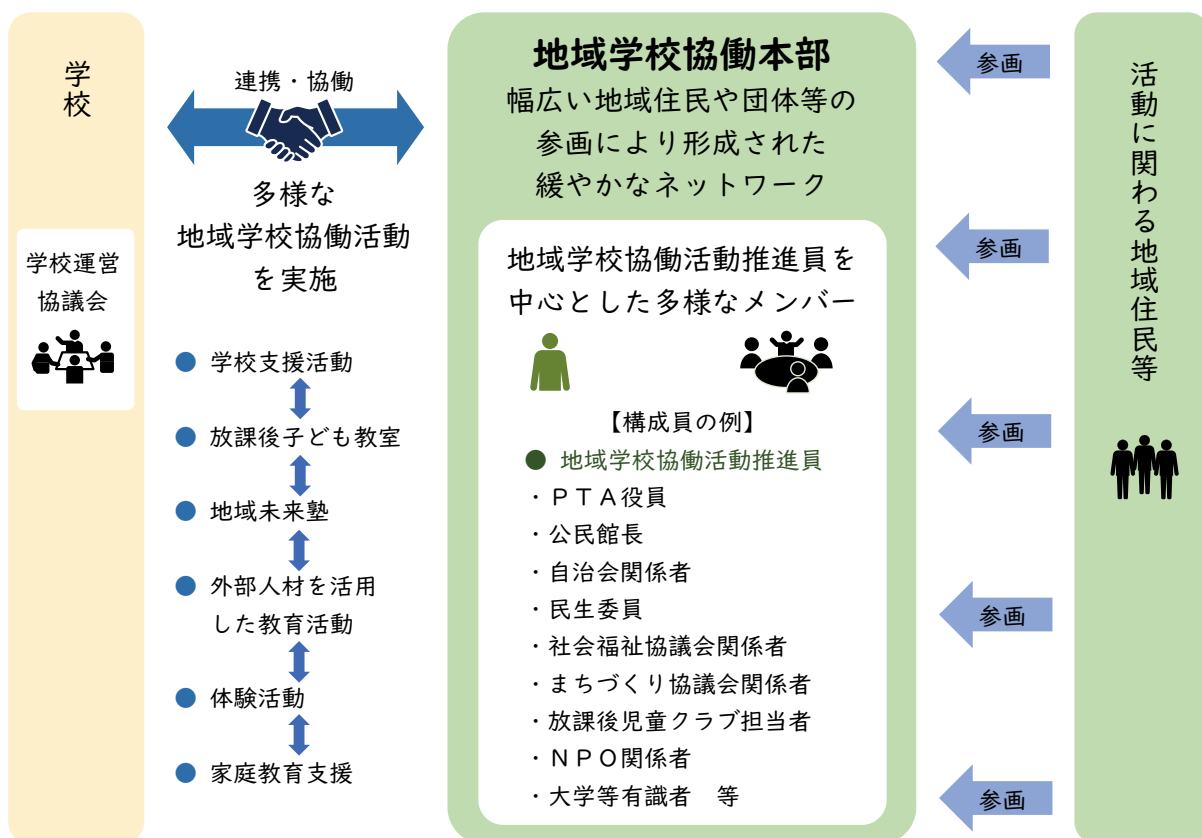
【これまでの学校支援活動の課題】

- ・活動が個別に実施され、活動間の連携や学校と地域との双方向の活動が十分ではない。
- ・コーディネート機能の大部分を特定の個人に依存し、持続可能な体制がつくられていない場合が多い。



「支援」から「連携・協働」へ 「個別」から「総合化・ネットワーク化」へ

【地域学校協働本部の体制】



■ 地域学校協働本部の3要素

連携の体制は様々な形態があることから、地域学校協働本部については、法律上の規定はありませんが、次の3つの要素を備えることにより、地域学校協働本部に該当するものと判断することができます。

- ①コーディネート機能 地域住民等や学校関係者との連絡調整、活動の企画・調整を担う役割
- ②多様な活動 より多くの地域住民等の参画による多様な地域学校協働活動の実施
- ③継続的な活動 地域学校協働活動の継続的・安定的な実施

学校と地域の目指すべき連携・協働の姿

■ 中央教育審議会答申

平成 27 (2015) 年 12 月 21 日中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」では、これからの学校と地域の目指す連携・協働の姿を示しています。

【これからの学校と地域の目指す連携・協働の姿の3つの視点】

・地域とともにある学校への転換

これからの公立学校は、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民等と共有し、学校運営に地域住民や保護者等が参画することを通じて、学校・家庭・地域の関係者が目標や課題を共有し、学校の教育方針の決定や教育活動の実践に地域のニーズを的確かつ機動的に反映させるとともに、地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを進めること。



・子どもも大人も学び合い育ち合う教育体制の構築

学校、家庭及び地域は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互に協力していくこと。子どもの育ちを軸に据えながら、地域社会にある様々な機関や団体等がつながり、住民自らが学習し、地域における教育の当事者としての意識・行動を喚起していくことで、大人同士の絆や学びが深まっていくことは、生涯学習社会の実現のためにも重要であること。



・学校と核とした地域づくり

地方創生の観点からも、学校を地域の人々が集い、学び合う場とした連携・協働の取組を通じて、子どもたちに地域への愛着や誇りを育み、地域の将来を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深めることで、子どもたちの豊かな成長にもつながり、人づくりと地域づくりの好循環を生み出すことにもつながること。その際、地域が学校・子どもたちを応援・支援するという関係ではなく、子どもの育ちを軸として、学校と地域がパートナーとして連携・協働し、学校と地域の双方向の関係づくりを進めること。



■ 学習指導要領

平成 29(2017)・30(2018)・31(2019) 年改訂学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」の理念を掲げています。



【「社会に開かれた教育課程」の3つのポイント】

- ・ 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ・ これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育てていくこと。
- ・ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

参 考 文 献 等

- 地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン 参考の手引き, 文部科学省, 2017 ※1
- 地域学校協働活動推進員の委嘱のための参考手引, 文部科学省, 2017
- 地域学校協働活動ハンドブック, 文部科学省, 2018 ※2
- 地域学校協働活動 地域と学校でつくる学びの未来, 文部科学省, 2019 ※3
- これからの学校と地域 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動, 文部科学省, 2020 ※4
- コミュニティ・スクールのつくり方, 文部科学省, 2020 ※5
- 学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究, 文部科学省, 2021
- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について(制度編), 文部科学省, 2022
- 地域と学校の連携・協働体制の実施・導入状況調査結果, 文部科学省, 2019-2022
- 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編, 文部科学省, 2017
- 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編, 文部科学省, 2017
- 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編, 文部科学省, 2018
- 学校と地域でつくる学びの未来ホームページ
<https://manabi-mirai.mext.go.jp/>
- 新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について(答申), 中央教育審議会, 2015
- 新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について(答申), 中央教育審議会, 2019
- 地域連携教員のための手引き書 学校と地域を結ぶ, 栃木県教育委員会, 2017 ※6
- 学校における働き方改革推進プラン(第2期), 栃木県教育委員会, 2022
- 学校支援のためのコーディネーターに関する調査研究報告書, 栃木県総合教育センター, 2017
- 塩谷町地域学校協働活動推進事業ハンドブック 支え合い・学び合い・つながり合おう!, 塩谷町教育委員会, 2021
- 地域と学校をつなぐコーディネーター応援BOOK, NPO まなびのたねネットワーク, 2019

※1



※2



※3



※4



※5



※6



学校と地域の連携・協働推進ハンドブック作成委員

- | | |
|---------|--------------------------------------|
| ◎石井 大一朗 | 宇都宮大学地域デザイン科学部准教授 |
| 生形 和彦 | 佐野市教育委員会教育部生涯学習課社会教育係長 |
| 大野 規子 | 壬生町立稲葉小学校教頭 |
| 嶋 由可里 | 塩谷町教育委員会事務局生涯学習課社会教育指導員兼地域教育コーディネーター |
| ○福田 隆行 | 宇都宮市立豊郷中学校副校長 |
| 前田 隆志 | 栃木県立益子芳星高等学校教諭 |
| 松崎 佐代子 | 栃木県立今市特別支援学校教諭 |
| 宮地 ゆみ | 日光市立安良沢小学校地域コーディネーター |
| 築 真也 | 市貝町教育委員会事務局こども未来課課長補佐兼指導主事兼社会教育主事 |

◎委員長 ○副委員長 敬称略

学校と地域の連携・協働推進ハンドブック作成委員会 部会員

- | | |
|--------|---|
| 荒木 諭 | 栃木県教育委員会事務局義務教育課副主幹 |
| 雫 晃 | 栃木県教育委員会事務局高校教育課指導主事 |
| 長谷川 貴子 | 栃木県教育委員会事務局特別支援教育室指導主事 |
| 田中 久之 | 栃木県教育委員会事務局河内教育事務所ふれあい学習課副主幹 |
| 大橋 礼子 | 栃木県教育委員会事務局上都賀教育事務所ふれあい学習課社会教育主事 |
| 上野 竜一 | 栃木県教育委員会事務局芳賀教育事務所ふれあい学習課副主幹 |
| 椎名 裕美 | 栃木県教育委員会事務局下都賀教育事務所ふれあい学習課社会教育主事 |
| 江田 清水 | 栃木県教育委員会事務局塩谷南那須教育事務所ふれあい学習課所長補佐兼ふれあい学習課長 |
| 田辺 剛 | 栃木県教育委員会事務局那須教育事務所ふれあい学習課副主幹 |
| 萩野 和美 | 栃木県教育委員会事務局安足教育事務所ふれあい学習課所長補佐兼ふれあい学習課長 |
| 小柳 真一 | 栃木県総合教育センター生涯学習部社会教育主事 |

学校と地域の連携・協働推進ハンドブック

令和5(2023)年3月発行

編集・発行

栃木県教育委員会事務局生涯学習課

〒320-8501

栃木県宇都宮市塙田1丁目1番20号

TEL : 028-623-3404

FAX : 028-623-3406

E-mail : syougai-gakusyuu@pref.tochigi.lg.jp



栃木県教育委員会